

品川の花便り（春分の頃）大名庭園;カタクリ咲く都会の山里;池田山公園

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月02日

池田山公園は、品川区の管理となった江戸時代の大名庭園、岡山藩主池田家の下屋敷跡で、東五反田の傾斜面にあり、東屋は五反田地区のOLやサラリーマンの昼食や休憩の場所にも使われ、細い山道や、池の周りの斜面には、野生の花々が咲く都会の中の山里です。四季折々の花木もあちこちで楽しむ事が出来ます。

ねむの木庭と組み合わせた散歩道の一つです。

啓蟄を過ぎても昆虫たちに出会わないといった日が続き、暑さ寒さは彼岸までと言っても、5月の陽気は行き過ぎ、都会の山里の花たちが気になります。

広い遊歩道脇では、真っ白な花、ハナモモが、五月晴れのような青空に映えています。



観賞用の桃の花で、花びらは以外に小さく、梅のようです。

ハナモモの向かいでは、ピンクの杏子の花です。花期は短く、梅、桃、桜と騒いでいるうちに見られなくなります。



足元には黄色のヒユウガミズキです。咲き初めで蕾が未だあります。

遊歩道を下っていくと、赤とピンク系の白の塊、木瓜が見頃でした。



遊歩道の向こうには白モクレンが満開でした。

遊歩道から都会の山里を見上げると、何時しか雪吊も姿を消し、緑も増えてい
ます。



池周りを散策、奥の斜面に、紫色の小花が見えます。年々時期が早くなっているよ
うですがカタクリの花です。山でも、例年より早く見かけたそうです。都会では珍
しい自生の花、奥多摩等4～5月のハイキングの花です。和菓子に欠かせない片栗粉
の基です。

ユリ科の花ですが、他の花と違って花びらを後に反らし、雄しべ、雌しべが、まっ
しぐらに何かに向かって走っているかのように咲いています。小さな可愛い花に、
何かの勢いを感じます。澱粉の力かもしれません。

カタクリの花は池田山公園が都会の山里である事を強く印象付けますが、近くに、
池に流れ込む小さな滝があり、その前で記念写真を撮っている親子がいました。携
帯に出来上がった写真を見て「これが都会の中で撮った写真とは誰も思わない」

「誰が見ても山の中だよ」カタクリの花には、気が付かなかったようです。



斜面を登っていくと、雪ヤナギです。

足元には、スミレが開花していました。スミレは、斜面の足下の他、管理事務所
前、東屋前、遊歩道脇等、各所に見られます。都会の山里の象徴です。



斜面のツツジの緑の中に、白い釣鐘、スノーフレックが咲いていました。紛れ込ん
だものと思われず。

東屋近くでは、コブシが開花していました。白モクレンと入れ替わりに開花する花
で、池田山公園では、同時に咲いています。



不安定な陽気の中、新緑が追いつかないうちに、春分を通り過ぎたような都会の山里でした。



平成22年3月20日

撮影：内田雅弘（記者 NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月02日

こんな桜の楽しみ方も

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月08日

青物横丁の駅前通りを歩いていたら、手作りベーカリーのお店の入り口に素敵な桜が置かれていました。



お店の方に伺ったら、この桜は常連のお客様からいただいたそうです。ご覧のように、切り枝をさしているのですが、先週の土曜日（3月20日）はまだ蕾だったのが、一昨日（3月24日）からこんなに開いて、通る人々の気持ちを和ませる素敵な役割をしていますとのこと。

お店の奥様も丁寧に教えて下さって、常連客がこんな綺麗な桜を咲かせるお人柄がしのばれました。残念ながら桜の正確な名前はわからないようですが、染井吉野よりはちょっと小ぶりで、それがかえって可憐で清楚なイメージです。

自分の中に小さな春が訪れた気分になりました。

平成22年3月31日

寿松木 泰子（記者NO.080111）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月08日

品川の花便り（春分の頃）菜の花の散歩道;しながわ花海道

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月08日

品川は東京湾に面して埋め立てが進み、平成にかけて整備された新しい品川があります。その地域と周辺の様子です。

しながわ花海道は勝島運河と地図に記入されている立会川河口で、地域の人たちによりお花畑に変身した所です。

昨年11月に地域の人たちにより菜の花の種蒔きが行なわれ、立春の頃から開き始め、不穏な天候の下、見頃を迎えました。



近くの立会川商店街に坂本龍馬の像があり、今年は見学を訪れる人が多く、菜の花畑に足を延ばす人も多いようです。

菜の花の道は普段から近隣の人の散歩道で、鮫洲橋付近からは富士山が見える日もあります。連休最後の日とあって、多くの人たちが菜の花の散歩道を満喫していたようです。水辺で食事をする家族連れ、品川区の鳥ユリカモメを楽しむ姿もありました。満開ではなく蕾が残っています。



また、土手の桜も、大島桜が開花していました。桜が見頃になる頃は、昨年同様、菜の花も満開になるかもしれません。菜の花と桜のお花見が期待されます。

鮫洲橋の近くでは、紅花トキワマンサクも見頃を迎えていました。



平成22年3月22日

●撮影：内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月08日

地域の環境は、一人ひとりの小さな心（努力）の積み重ね

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月13日

毎日のように孫を林試の森公園で遊ばせていた時、砂場に犬や猫の糞をよくみかけました。砂場を清掃しておけば、犬猫が糞尿をしなくなることがわかりました。砂場をきれいに保つには砂場の周りの広場、さらに散歩道も・・・と清掃の範囲が広がっていきました。後で知りましたが、私より数年も前から、公園内の道路を毎日5～6時間清掃している人（ボランティア）がいました。近頃では清掃ボランティアの人数が増え、公園内を区分け分担して清掃しています。清潔な所へゴミを捨てる人はあまりいません。手前味噌かもしれませんが、公園がきれいになってきたような気がします。



散歩道の清掃。自分で作ったほうき（公園に自生の笹を利用）を使用しています。（市販の竹ぼうきでは3～4日で磨耗して使えなくなります）。



砂場の清掃。枯葉とごみを熊手でかきあつめ、ふるいでふるいます。

一人ひとりの小さな心（努力）の積み重ねが、地域の環境を良くするのだと思って続けたいと思っています。

平成22年4月8日

環境記者 K.K

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月13日

林試の森公園の桜、昨今

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月14日

林試の森公園の桜の昨今をご紹介します。
同公園では2月に河津桜がきれいに咲き誇りました。



ソメイヨシノの開花は木によって違いますが、今年の開花は春分の日頃だったか
と思います。

3～4分咲きの3月22日のソメイヨシノ（同公園「大きな広場」の様子）とミカド
ヨシノです。



満開になった4月1日の同公園「大きな広場」の様子です。





平成22年4月7日
村井恵美子（記者NO.080201）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月14日

京浜運河に自然を！

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月14日

2002年5月、突然運河の中に海の水が大量に流れ込んできて、その後2008年頃までその流れによって普段運河では見られることのない色々な生き物が出現しました。皆さんも運河の水がこの頃はきれいに感じられると思いますが、実際に東京湾口の海水とあまり変わらない様な水質に近くなっていました。それまでの28年間の観察では見た事のない現象でした。でも現在は再び昔の状態に戻ってしまい、2009年は生き物の種類が元に戻ってしまいました。また、出現した生き物でも元々わかしか棲んでいなかった種類は極端に少なくなってしまいました。昨年状態は1996年以来では最も生息状況は悪いものでした。

しかし最近の状態から見れば今年は冬の水質のきれいさが通常の年と同じ様になり、種ごとの生息個体数は増えてくる感じがしています。その点で昨年よりは幾分良いのかなと思っています。



私たちが廃棄する燃えないごみの一部は最終的には東京湾を埋め立てられることになり、水域はますます小さくなり、湾奥の運河は川の水が流れるただの川の延長になってしまいます。いま京浜運河には海の生物が結構いますが、より一層淡水化が進み、将来はそこに棲める生物は限られてしまいます。

今でも塩分が2%より低く、かなり淡水化しています。そのため運河の中には薄い塩分でも

生活出来る種類の生物が多くいます。国内種もいますが、特に外国からの移入種が多く棲んでいて、その状態は種類数の多さを含めて日本国内で最もホットスポットであると言われていました。ごみを減らすことや水の流れについて考えないと、いずれ京浜運河に海の生物が棲めなくなってしまいます。

一方しながわ花海道の菜の花がきれいに咲き誇り、水も以前に比べると透明度が増していると思います。いつまでもきれいな京浜運河であってほしいと願っています。

環境庁（現環境省）が言うように “かけがえのない東京湾を次世代に引き継ぐために” を実行してみませんか。



平成22年4月5日

青野良平（記者NO.070103）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月14日

聖蹟公園での花壇ボランティア活動

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月21日

聖蹟公園内の花壇において、品川区の花壇活動にボランティアのチームとして参加しました。（平成22年4月14日、PM3：00から）

チーム名は「品川フラワーレンジャー」です。

季節に応じて年4回の花の植替えと、適宜水撒きをしながら花壇を管理し、公園の清掃美化活動をしていきます。

【今回の活動内容】

花同士の間隔を10cm程度にして植えました。

作業時に見学者が数名来られ、ボランティアでの花植えをお話しながら対応しました。

植えた後は、花屋さんに指導していただき水撒きしました。

結構、大量の水を撒きました。

花壇周りの清掃をして終了しました。

約50分程度の作業でした。



花植え前

花植え後

平成22年4月14日

小野文義（記者NO. 090107）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月21日

品川の花便り（清明の前）大名庭園；池田山公園古木の桜 品川の花便り（清明の頃）大名庭園；新緑の香り池田山公園

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月23日

品川の花便り（清明の前）
大名庭園；池田山公園古木の桜

池田山公園は、品川区の管理となった江戸時代の大名庭園です。岡山藩主池田家の下屋敷跡で、東五反田の傾斜面にあり、細い山道や、池の周りの斜面には、野生の花々が咲く都会の中の山里です。四季折々の花木もあちこちで楽しむ事が出来ます。ねむの木の庭と組み合わせた散歩道の一つです。

桜は、第三日野小学校前の入口近くの遊歩道脇に、古くからの大木があります。大木の全体を見渡せる場所では、午後は正面から日が差し、眩しい桜見物になりました。



桜見物に訪れていたお年寄、じっと佇んでいましたが「今日の桜、最高だって、ここでシャッター押してくれますか」喜びの溢れた笑顔でした。感激の一時。遊歩道の左手奥は都会の山里、東屋が見えます。



満開になったとは言え、未だ花ピラの色は白っぽく、本当の見頃は今からといった感じでした。

ただ、立春の頃から、気温や天候が不安定、久々の晴れの日の桜見物になりました。



品川の花便り（清明の頃）
大名庭園；新緑の香り 池田山公園

池田山公園は、品川区の管理となった江戸時代の大名庭園、岡山藩主池田家の下

屋敷跡で、東五反田の傾斜面にあり、上部にケヤキの広場、東屋があり、五反田地区のOLやサラリーマンの昼食や休憩の場所にも使われ、細い山道や、池の周りの斜面には、野生の花々が咲く都会の中の山里です。

四季折々の花木もあちこちで楽しむ事が出来ます。ねむの木の庭と組み合わせた散歩道の一つです。

庭園に入ると、管理事務所前で、新緑が迎えてくれました。秋のもみじで真赤だったもみじが新しい黄緑色を付け始め、他の木々も新鮮な緑に包まれ始めていました。桜の満開は4月1日でした、その後、新緑が付き始めたようです。

ケヤキの広場は、もみじの新緑です。



東屋前も新緑に包まれ、訪れた人たちが、目の前に広がる庭園の緑に感激していました。

東屋前から庭園を見下ろすと、新緑の中に、桜も見られます。



池周りからも、庭園の新緑がうかがわれます。都会の山里にも、新緑の香りが漂い始めました。

遊歩道では、新緑が桜に映えていました。



もみじには、赤い蕾が多数付いています。やがて、小さな可愛い花が開き、トンボのように飛んでいきます。

池の奥の斜面には、薄暗い中、木漏れ日に、ヤマブキが輝いていました。



下の方では、シダが新しい芽を付けている中、シャガが咲いていました。

池周りでは、岩陰に、山イチゴ（野イチゴ）が花を付けていました。



庭園のいたる所で、スマレの群生が見られました。都会の山里に自生する花々の季節です。



平成22年4月1日、6日

●撮影：内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月23日

品川神社散歩道

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月23日

毎年ここで初詣をして1年のスタートを切っていますが、殆んど詳しいことも知らず伺っている次第です。そこで、すこーしゆっくりと見学してみました。

北品川三丁目第一京浜沿いに位置するこの神社は、平安時代末期およそ八百年程前に源頼朝が天比理乃 命を当地に祀ったのを創始とする。

鎌倉時代末期の元応元年（1319年）にお稲荷様、室町時代中期の文明十年（1478年）に天王様を祀り慶長五年（1600年）、徳川家康公が関が原の戦いの戦勝を祈願しその後祈願成就のお礼に仮面（天下一嘗の面）・神輿（葵神輿）などを奉納



天下一嘗の面



葵神輿

寛永十四年（1637）徳川家光公より御修覆所と定められ二度の社殿焼失の際には將軍の命による再建が行われるなど徳川將軍家の庇護（ひご）を受けた。明治元年十一月に明治天皇が新都・東京の安寧（あんねい）と国家繁栄を御祈願されるために准勅祭神社（じゅんちよくさいじんじゃ）である十社のひとつと定められた。社殿の老朽化が進み昭和三十九年（1964）現社殿に再建された。



53段の階段をあげると目の前には、慶安元年（1648）三代將軍徳川家光公の側近、堀田正盛公が奉納した石造鳥居がみえる。この鳥居、都内では上野東照宮に次いで二番目に古いとのこと。



■品川神社境内の富士登山道と狛犬

境内に入ってすぐ左、「ぶじかえる」交通旅行安全守護の子連れのカエルが、さらに奥へいくと富士登山道がある。



道なりに数歩進むと左に幅の狭い石段があり不安定な足取りで登ると頂上に着いた。



狭くて傾斜が急な登るより
降るのが怖い石段

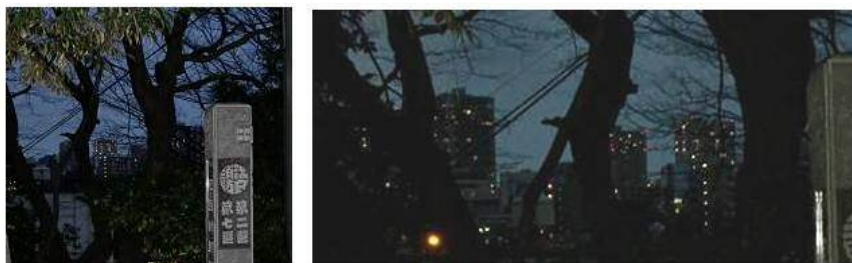
富士登山道頂上より見える景色。天王洲アイ
ビル郡と蕾の桜

赤い囲みは、陶器製で金網で保護されています。

それぞれ、顔の表情が違う10の狛犬が品川神社で迎えてくれます。



■境内から見た夜景、品川駅近辺のビル群が見えます。



■富士登山道別ルート

5 3段の階段中ごろにあります。（左下写真）

そうそう、神社正門入口左に大黒天様がいました。（右下写真）



まだまだ、寒い季節ですが、見学しているうちに暖かくなってきました。

この記事詳細の確認等に品川神社の関係者の方々にご協力いただきありがとうございました。

平成22年3月31日

小野文義（記者NO.090107）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月23日

品川神社散歩道 への1件のコメント

1. *nana* より:

2010年10月25日 9:17 PM

こんど品川神社で挙式をします。

参考になる貴重な記事をありがとうございます。

挙式前に散策に行きたいと思います ^^

品川の花便り（清明の前）心に残したい品川；五反田公園の桜&平成の品川；
桜の下でお花見

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月23日

心に残したい品川；五反田公園の桜



五反田公園は、変遷を続ける五反田の斜面に位置する公園で、しながわ百景でも紹介されている桜の名所です。桜は石畳の坂道の両側にあります。春分の事に開花し、5分咲き程度になっていて、その後、時間が止まったような状態が続きました。坂にありながら背が高いため、見上げる感じ、早咲きの花が、幾分落花したようで、隙間が多いように見受けられました。

平成の品川；桜の下でお花見

しながわ中央公園

品川には、平成にかけて整備された新しい品川があります。その地域と周辺の様子です。しながわ中央公園は、ボランティア花壇の他運動場、テニスコート、トリム広場等を有し、設備の電力を風力、太陽光で賄うように作られた平成の公園です。



公園の桜は、何と言っても、運動場東の土手にある大きな古木です。地元の方から贈呈されたものです。水場のある広場を見渡せば、桜の下、芝生でお花見の光景です。



運動場脇では、彼岸桜も見頃になっていました。

公園南側の道路沿いでは、チューリップも満開でした。

平成22年4月13日

●撮影：内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月23日

品川の花便り（清明の前）心に残したい品川；顔もほころぶお花見 しながわ
区民公園&平成の品川；桜の公園 東品川海上公園

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月28日

心に残したい品川；
顔もほころぶお花見 しながわ区民公園

品川は、東京湾に面して埋め立てが進み、昭和に整備された新しい品川があり、しながわ区民公園は勝島運河を埋立てて作られた公園で、お花見広場、野球場、プール、テニスコート、噴水広場、梅林、キャンプ場、海水のせせらぎと「池」、水族館、周回遊歩道、自転車道等を有する総合公園です。桜は、各所に植えられています。



競馬場通り、北口に入ると、正面は、お花見広場の桜が生垣のように広がっています。その中に、紅く見えるのは、紅花トキワマンサクで、満開になっていました。



東

西

広場前の通路は、東西の遊歩道、自転車道で、共に桜が迎えてくれます。



お花見広場では、桜の下でお花見、中ほどの広場は、バトミントン等で楽しむ姿がありました。家族連れの穏やかなお花見でした。

広場の南側は野球場、お花見より試合に夢中でした。野球場の周りは、以外に広い範囲で、桜に包まれています。



梅林にも桜があります。1本の桜が華やかに咲いていました。
遊歩道の桜は、西側より東に多くあります。野球場横から、勝島の海手前までの様子です。桜に混じって、白い大きな花、コブシも咲いていました。



高速道路下のトンネルを潜ると、左手は高砂の丘です。桜、ハナモモ、ホウキモモ、ミツマタと華々しく咲いています。多くの方が、写真に収めていました。桜は、日当たりのいい丘で青空に映えていました。赤いハナモモはほぼ満開、その赤さを、皆、感激の様で見つめていました。白のホウキモモは五分咲き、この奥にも咲いています。



ミツマタも五分咲きでした。珍しそうに見入る人が多く居ました。
桜のお花見の予定が、華やかで、贅沢なお花見になったようで、訪れた人たちは、皆、顔がほころびていました。



勝島の海の東側にはもう一つ高台があります。高砂の丘の直南から木陰に入ります。木陰の山道を歩くと、突き当りに赤みを帯び始めたカナメモチが見えます。その奥に桜があります。細い道を抜けると、桜の広場に出会います。西側は、水族館前の池が広がっています。



高台を抜け、勝島の海へ出ます。桜は、勝島の海の西側から、小さな海越しに見るのがいい景色になります。東海道を模した松並木越しに、高台の桜や、高砂の丘等も見渡せます。

平成の品川；

桜の公園 東品川海上公園



東品川海上公園は、東京湾に面して埋め立てが進み、目黒川河口に、平成にかけて整備された新しい公園で、公園にかかるアイル橋は、富士山を見ることが出来る場所です。公園内の東品川ポンプ所屋上には花壇もあります。隣接して、野球やサッカーの出来る運動場もあります。公園の様子は、ポンプ場上がる階段から、大半を見ることが出来ます。見渡せば、殆どの木が桜です。遊歩道は、何処へ行っても桜並木です。

平成22年4月17日

●撮影：内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月28日

【2010年 品川区内の桜】

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月28日

品川区内の今年の桜の写真を環境記者の内田雅弘さんがお送りくださいましたので、その一部をご紹介します。



しながわ中央公園



西大井公園広場



養玉院・如来寺



旗岡八幡神社



池田山公園



立会道路・荏原町



立会道路・第2延山小学

校前



五反田公園



戸越公園



御殿山通り



目黒川沿い



目黒川



しながわ区民公園



しながわ花海道



大間窪小学校



東品川海上公園



大井公園



浜川公園



カテゴリ: 平成22年度

投稿日: 2010年04月28日

南大井2丁目道路の華やかさ！

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月30日

やっと暖かくなり、身もころも開放的になる季節がやってきました。
うらかな陽気は、初夏を彩る若葉や花たちに活力を与えてくれます。
南大井2丁目花ロードのマーガレットも一斉に咲き誇り、歩道を行きかう人びとを楽しませています。
白色花がポピュラーですが、最近では黄色、ピンク色などが人気です。
大森海岸駅前～しながわ区民公園入口までの歩道が、ピンクのマーガレットで華やいています。



歩道花壇で花の手入れをしていると、通りすがりの人との会話が楽しいです。

「見事な花ですね！」

「皆さんに楽しんでいただき嬉しいです」

「とてもきれい！」

「私ですか？ お花ですか？（爆笑・・・）」

見知らぬ方と花を介してこんな会話が盛り上がります。

南大井2丁目の花ロードで、お会いしましたらお声かけてくださいね。



平成22年4月26日

撮影：真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年04月30日

「みどりとエコ」花いっぱい運動取組み1年が経過

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年05月07日

平塚二丁目町会では、昨年品川区協働事業に提案し採用された「花いっぱい運動」を展開しており、3月18日の第三回花の講習会ハンギングプランターの植栽で終了し、一年間の取組結果を「協働事業に関する報告書」としてまとめました。

土壌の熟成スペースを京陽公園に設置し、生ゴミ処理機を用いた生ごみ再生土壌づくり作業のため「平二ファーマーズクラブ」（男子8名）を結成し、活動を続けています。



ガーデニングの専門家による実技講習会を3回実施、200セットのプランターを町会会員に貸出し、道路脇を彩っています。

植栽されたハンギングプランター14基は町会会館前に飾られ、道路に面したベランダ等に置かれるのを待っています。



屋上緑化の常緑きりん草は昨秋の設置以後、葉が黄色くなることなく、また枯れることもなく年を越しました。土が飛散することなく、水遣りする必要がなく繁茂し続け、枝を挿したもの全て根が生えました。現在はこれらを街路灯の縦型プランターに移植し、成長し続けております。



道行く人達の間では咲いている花を愛でながら会話が弾み、咲き終わった花を摘んでくれる方々もおられます。花の種や実のなる植栽などの提供や、次に何を植えようかといった話、また今度野草を摘みに一緒に行く日程が決まるなど、花と緑の話題は途切れることがありません。今後の展開が楽しみです。

町会組織として「花と緑の部」の設置が決定し、この運動を継続的活動にしようという合意が出来ました。

この「みどりとエコ」花いっぱい運動の取組にご指導、ご協力いただきました皆様方に心から感謝申し上げます。重ねて今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成22年4月20日

志賀 勝（記者NO.060110）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年05月07日

品川の花便り（清明の前）心に残したい品川；立会川（道路）の桜

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年05月10日

心に残したい品川； 立会川（道路）の桜

荏原の中心であった筍等農耕の村が鉄道等により急速に発展した昭和の町に、目黒碑文谷から流れる立会川がありました。昭和40年代にふたかけされ、新しい街並みが生まれました。道路は舗装され、川の水に代り車が流れ、近隣には家が立ち並び、桜たちも苦労しているようです。

1、川沿いに残る桜 西小山桜並木；



東急目黒線西小山駅付近からの立会道路には、第二延山小学校付近まで、川沿いの桜並木が残っています。

荏原南公園の桜は、桜の名所になっていて、地域のお花見の拠点になっています。

2、遊歩道の桜 荏原町・中延；



荏原町三間通りから中延、第二京浜国道付近までは、遊歩道になっていて、昔の川沿いいっぱい咲いています。

3、公園と分離帯の桜 第二京浜国道から大井町駅前；



大井町駅前から第二京浜国道までは一方通行の車道、車の量も多く、桜は、西大井

原っぱ公園、西大井広場公園、分離帯に咲いています。
西大井広場公園の東側は分離帯に咲いています。



大井町駅前通りでは、今年は一本だけでした。色んな種類がありますが、何故か、蕾等の気配を感じませんでした。

4、近隣の桜 大井町から月見橋；



大井町から月見橋までは通歩道、桜は、隣接の東芝病院の桜です。

ほどほどに遊歩道に覆い被さっているものもあります。

関ヶ原公園前のせせらぎ近くでは、桜の下、真赤なシャクナゲが満開でした。

5、川沿いの桜 桜橋付近；



月見橋から河口までは、ふたかけされていません。極めて水量の少ない川です。
その川沿い、桜橋付近には昔の桜が残っています。

心に残したい品川；

運搬船の面影 目黒川沿いの桜

目黒川は武蔵野から流れる川、目黒区、世田谷区と殆ど川幅が変化ありません。品川区内では、京浜工業地帯の発展に合わせ、船輸送が行われ、川底が深く掘られました。海水が逆流しているような状態だと思えます。

現在は、工場の移転も多く、街並の変化が目まぐるしい所ですが、川沿いには桜が整備されています。

ただ、場所によっては、川沿いの道路は、車の通行が激しく、歩行者専用道路とは限らず、フェンスが高いので、桜は、川にかかる橋の歩道からの見学になることも多いようです。

品川区内、西の方から河口に向かって川沿いを進みます。



市場橋、谷山橋の間では、ビルの谷間に、桜並木が見られます。

五反田付近までは、ビルの日陰に時折見ることが出来ます。



五反田では、大崎橋公園にもありますが、K字橋の袂にもあり、橋の上から桜を見ることが出来ます。東側には山手線の電車が見えます。

K字橋西側では、東急池上線の電車が見えます。K字橋が一段高い位置にあることを感じさせます。



御成橋付近には桜並木の遊歩道が、近年整備されました。

御成橋からは、その遊歩道の桜並木です。



御成橋袂の御成橋公園は、日当たりも良く、お花見に手頃の桜です。

大崎ニューシティの裏はビル陰で昼間も暗く、居木橋公園の桜は、日陰の涼しさを感じました。



大崎一帯を見渡す事が出来るのは、居木橋、陽射しが良ければ、午前中は、川沿いの桜が輝いて見えます。

山手線のガードを潜ると三共橋、橋の向こうに桜並木があります。南品川の路地に通じる小道です。



更に、東海道線のガードを潜ると中央環状線換気口の工事現場、要津橋東側です。

左右に並木が広がります。

要津橋に出ると、東側は、両岸に桜並木が広がっています。第一京浜国道まで続いています。



また、両岸には通歩道があり、桜のトンネルになっています。遊歩道は第一京浜国道で中断します。

第一京浜国道にかかる東海橋から東は、北側の道路に面して桜並木になっています。



この歩道も桜のトンネルになっています。

トンネルの合間には、橋があります。まず、荏川橋です。東には、荏原神社前の桜並木も見えます。



鎮守橋から荏川橋方面です。手前の桜は、荏原神社並木の桜です。

荏原神社鳥居脇の恵比寿様は寒緋桜に続くお花見です。新緑は寒緋桜、神社の桜は寒緋桜の後になり、他の桜と共に、目黒川を彩っています。



品川橋付近から、赤い鎮守橋の向こうに、荏原神社付近の桜が見られます。神社と鳥居は桜の奥です。

品川橋から東は桜も少なくなります。この日、幾度も出会った小型船が通過して行きました。京浜工業地帯の交通の要所、目黒川を行き交った運搬船が思い浮かべられます。

更に東に進めば河口です。河口には、桜の公園東品川海上公園があります。

平成22年4月17日

●撮影：内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年05月10日

品川の花便り（穀雨）心に残したい品川；ハナニラの庭 旗の台

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年05月10日

心に残したい品川；

ハナニラの庭 旗の台

旗の台は、荏原の中心であった筍等農耕の村が鉄道等により急速に発展した昭和の町、旗岡八幡神社の西の台地で、「旗」にちなんで、旗の台と呼ばれています。旗の台5丁目は、小山の田園都市に、路地の幅で、一步遅れを取ったような地域で、昔ながらの街並も残っています。一部拡張された所では、生垣が設けられ、季節の花々が、道行く人を楽しませてくれます。

その木陰に、二輪草が開花していました。



一つの身体が二つに分れて花を咲かせる、興味ある花です。

二輪草の上では、ツツジが咲き始めました。ツツジが開いている途中、不思議な形です。



昔ながらの細い路地、多くの家が、庭に共同住宅を作り、緑を失いましたが、未だ、庭が残っている貴重な住宅です。その庭が、毎年、この時期、真っ白になります。一面にハナニラが開花します。やがて、紫陽花が、この金網から顔を出します。何時までも、このままで居て欲しい光景です。ハナニラの庭から西に向かうと、ピンクの塊です。



近寄って見ると、ハナモモ、色んな桃があります。

別の路地では、オダマキが咲いていました。もう一箇所のオダマキ、今年は見当たりませんでした。

車の少ない路地は、花を楽しむことが出来る路地です。緑が残っています。

平成22年4月21日

●撮影：内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ : 平成22年度

投稿日 : 2010年05月10日

どんぐり保育園の保育士さんに対する環境教育

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年05月10日

4月23日（金）午後6時から7時過ぎまで、どんぐり保育園の保育士の皆さん（53名）に対し、「地球をとりまく自然環境はどのように変化しているか、都市の温暖化・CO2削減にむけて自分たちのまわりで何が出来るのか」について、NPO法人エコタウンしながわ副理事長の酒井康一さんとコラボで環境教育を行いました。

どんぐり保育園環境教育日程時間割

16日(金)～18日(日)		19日(月)	
環境等講演資料作成完了		10:00～15:00 ◎◎の打合せと会場視察 ◎◎の環境ゲーム手順 ◎◎の記録資料確認 ◎◎の方法確認	
場所：東京サラヤ 本社			
23日(金)		19:00～19:15	
17:45 準備15分	18:00	18:00	19:15
17:45 18:00 18:15 18:30 18:45 19:00 19:15	18:00 18:15 18:30 18:45 19:00 19:15	18:00 18:15 18:30 18:45 19:00 19:15	18:00 18:15 18:30 18:45 19:00 19:15
教材セッティング	挨拶 環境問題の概要説明	未来ゲーム	まとめ 私たちに出来ること
	15分	30分	15分

環境教育の講座内容や進行方法などについての検討や準備をNPO法人エコタウンしながわとJCCCA（旧地球温暖館）に相談しながら進めました。結果として講座をスムーズに終わることができ、ほっとしました。

以下、その様子を報告いたします。



（左上）人間社会における物質循環の説明をする酒井さん



（右上）ゲーム名「未来ゲーム」を説明している私。

「未来ゲーム」は次のように行います。

黒板に西暦「2010年」から「2050年」まで10年ごとに表記されたカードを貼り、その下に2010年に生まれた人が成長する様子を描いたカードを貼って受講者に現実味というか生活観を感じてもらいます。さらに人の成長に合わせて地球環境に何が起きているかを予測し、黒板に貼ってもらいます。予測事項は前もってカードに記載されたものが保育士さんたちに配ってあります。保育士の皆さんは、真剣に説明を聞いていました。



さあゲームスタートです。3グループに分かれてどの年代にカードの予測事態が起きるのか、いろいろな意見交換をしながら楽しそうに話しています。



タイムアップ。実際の環境破壊の様子を写真で見せながら解説しました。パワーポイントを使って更に細かな説明をしました。



最後のまとめをする酒井さん

平成22年4月28日

小野文義（環境記者NO.090107）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年05月10日

品川の花便り（清明の前）カナメモチ紅く萌える

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年05月14日

今年の桜は彼岸の頃に開花し、4月1日に満開宣言が出されましたが、気になっていたのはカナメモチです。



1、日本から四季が消えた

桜を求めて廻っていると、至る所で、紅く色付いています。3月末から色付き始めていました。過去の記憶では、5月半ば頃、初夏の暑さを感じる頃からだったはず

です。

あまりに時期が早いと感じました。
立春の頃から続く、冬の気温と夏の気温の繰り返し、大気の温度分布が完全に狂ってしまって、日本の四季が消えた事を実感します。寒気と暖気が世界中を不規則に漂い始めたようです。気温の変化が激しいので、風は強くなります。台風並みの風は日常茶飯事になるはず。雨や雷は予想もつきません。気温の上昇も外国では40℃の記録があるように、日本でもあり得ます。

天災ではなく人災です。

2、昆虫のいない世界

更に、啓蟄を過ぎたというのに、虫たちに出会わないのです。

植物に若芽が出た事は良い事ですが、時期が違う事は、異常事態です。

虫が居ないという事も、生物が住む事が出来ない事を意味しています。

2030年では遅すぎます。今すぐに、気温を下げないと、生物は滅びます。経済界、産業界は如何なるといった問題ではなく、生物の死活問題です。

3、温暖化の要因は火を使う事

原因は所謂温暖化、その要因は炭酸ガスの増加とのことですが、それだけではないと考えています。

最も大きい要因は、人間が火を使うようになった事です。本来、火は、火山の爆発、あるいはそれに伴う地上での火災だけだったはず。

動物が動くのは、主に昼間、人間は火を使う事により、夜も動いています。一日中、火を使い続けています。

地上のあらゆる生物は、火を怖がっています。燃えて死を予感させるからです。人間は、その事を逆に利用し、他の生物を制圧し、地球は人間のものであると勝手な解釈をしています。

4、火力=電子の移動

火は、物質が燃焼する時の現象、化学反応による発熱です。つまり、電子の移動による発熱です。物質は、電子が移動する事で化学変化を行い、その時の電子の移動によって発熱します。磁場も発生します。

生物が生長するのも、体温を維持するのも、電子が移動し、化学変化をしているからです。動物が動くのも同じです。運動すれば熱くなる、電子が移動したからです。小さな電流のはずです。その電子の移動で、十分に発熱します。薪を燃やしても、石油を燃やしても、電気を使っても、発熱する事には変わりありません。

電子が移動すれば、発熱する、磁場を発生するという事が、忘れられています。「燃える = 主に酸素との結合 = 電子の移動による化学変化」です。

5、バイオ燃料も地下資源燃料も同じ

バイオ燃料という考えがありますが、地上の物質は、何を燃やそうと全てエネルギー的には同じです。地下資源も地上物質も、燃えれば物質の状態が変化するだけで、地上の元の原子総量は変化しません。石炭、石油、原子力、植物によるアルコール、何れを燃やしても、地上の物質のエネルギーはそのままです。原子が形を換えて何時までも残っています。

6、蓄電は新しいエネルギー源を作る事（充電、放電と二回発熱）

火を使うつまり、「電子の移動」が発熱源です。エネルギーは保存されていますから、何度でも、物質を作り変えることにより発熱します。太陽光発電も、そのまま使えばエネルギーの変換ですが、蓄電すれば、新しいエネルギー源を太陽光で作ることになります。使うのは、新しく作ったエネルギー源・蓄電池ですから、充電、放電と二回、発熱する事になります。蓄電とは、新しいエネルギーを作る事です。発熱を二回行う事です。

7、電波は空中に電気を流します。当然、磁場も発生します。空気中の物質の変化がどのようになっているか、物質が極めて微小で目に見えないもの、温度変化や磁場の変化、電子の流れ等、物質そのものは感じて、応答しているはずで

8、2030年のCO2増加停止では遅すぎ

火を使う、電気を使う、この事を止めない限り、発熱は続きます。発熱が続く限り、太陽光以外のエネルギーですから熱量は増え続けます。放熱量は、昔より条件が悪くなっているのですから、現在のCO2増加を止めるだけでは、絶対に気温は下がりません。2030年には、東京の夏の気温は40℃以上になり、生活出来ない筈です。なお、東京は、今年40℃以上になっても不思議ではありません。

9、具体的に何をするか

とにかく、急速に地球を冷やす事です。人工災害だからこそ、全世界が一緒になって、地球を冷やさなくてはなりません。進化したという人間の文明を捨てない限り、温暖化はなくなりません。

なお、文明の進化は、手足が無かった頃の生物、動物の進化の初めの状態を、目指しているのと同じです。生物は、腸が延長して色んな臓器、筋肉等が付いたもので、手足は、動く為に出来たものです。動かすのを嫌がっている今の人間、文明の進化はそのように進んでいます。歩くのが嫌だから車を使う、手を使わずに、口頭に応じるロボットで、無線で、色んな事を行おうとしています。噛むのが嫌だから、粉にした食料を好んでいます。人間はあくまでも動物です。動く生物です。それを忘れる事に夢中になっていけば、温暖化は益々、進みます。

地球の温暖化は、江戸時代、海外で石炭の使用を始めた時から始まっています。つまり、それ以前の生活に戻さなくては、温暖化、異常気象は止まらないということです。

平成22年4月24日

●記事：内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年05月14日

品川の花便り（立夏）ベニバナトチノキ

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年05月20日

冬と夏の繰り返しという「とりあえずの春」の時期を過ぎ、立夏を迎えました。気温は、盛夏の頃を思い浮かべる高温、これから先の、本来の夏が思いやられそうです。暖気団という聞きなれない気象用語、不気味な存在です。



戸越公園、薪能の広場の端、濃い緑の中に濃いオレンジ色が見えます。ベニバナトチノキです。白い花をつける西洋トチノキ・マロニエを改良したものです。ただ、マロニエ並木はありますが、ベニバナトチノキ並木はありません。



多くは、公園で観られます。しながわ区民公園、しながわ中央公園、平塚たけのこ公園等。民家では、戸越公園近くの集合住宅の庭でも見かけた記憶があります。4月下旬から5月初旬の花で、藤、桐、ユリノキ等の花を探していると見つかるかもしれません。異常気象の中でも、開花時期の大きい変化は見られていません。

平成22年5月7日

●撮影：内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年05月20日

品川の花便り（立夏の頃）大名庭園；新緑のケヤキ 池田山公園

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年05月20日

池田山公園は、品川区の管理となった江戸時代の大名庭園、岡山藩主池田家の下屋敷跡で、東五反田の傾斜面にあり、上部には、ケヤキの広場、東屋があり、五反田地区の人たちの昼食や休憩の場所にも使われ、細い山道や、池の周りの斜面には、野生の花々が咲く都会の中の山里です。

四季折々の花木もあちこちで楽しむ事が出来ます。ねむの木の庭と組み合わせた散歩の一つです。



夏と冬の繰り返しの中、春らしさが無いまま立夏を迎えました。穀雨の頃に新緑に包まれていた都会の山里は、庭園に入ると、事務所前は、より一層緑の森になっていました。ケヤキの広場も緑の中、散歩の人が見られます。



大きなケヤキの緑が、穀雨の頃の紅葉の新緑に続いて際立っていました。ケヤキと言えば紅葉でしか気が付かない木、新緑から、植物の生命の力強さを感じました。広い遊歩道も新緑に包まれ、山里の下の入口、桜の古木も新緑に変わっていました。



咲き始めたツツジの新緑の向こうには、東屋のある新緑の斜面が広がっています。この日、庭園池周りでは、テレビ局の口ケ撮影が行われていて、発電機が廻り照明が眩しく光っていました。その事を除けば、静かな池周辺の新緑です。



池周りの山道から見上げると、新緑の中、松の手入れが行われているのが見えます。

東屋に向かうには、回り道、斜面のツツジが咲き始めていました。穀雨の頃から、足踏み状態のようだったようです。春とは言えない冬と夏の繰り返しの気候は、衣類とエアコンで季節感を失った人間には感じなくとも、大自然に生きる植物にとっては、綱渡り的な、命がけの生活のようです。



ツツジの下には、緑に包まれた池が見えます。咲き始めのツツジ、夏日に輝いてくれました。ツツジの赤と対照的に白い花、ヒメジオンも至る所で花開いています。



回り道の足元には、可愛いピンクのニワゼキショウが咲いていました。花壇の花として栽培されながら、人の好みの変化で、野草になった花です。細道には、穀雨の頃開花していたタツナミソウが、岩の隙間を見つけて咲き広がっていました。可愛い花たち、目を痛めてから見え辛くなりました。



東屋のある広場ではエビネも元気いっぱいでした。東屋からは、新緑が落ち着き始めた都会の山里が広がっていました。その中に、ツツジが広がるのも間も無い頃のように。新緑に包まれたケヤキと咲き始めのツツジ、タツナミソウの群生等立夏を迎えた都会の山里の一時でした。

平成22年5月7日

●撮影：内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年05月20日

品川の花便り（小満の前）心に残したい品川；旗の台のバラ

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月01日

旗の台は、荏原の中心であった筍等農耕の村が鉄道等により急速に発展した昭和の町、旗岡八幡神社の西の台地で、「旗」にちなんで、旗の台と呼ばれています。旗の台5丁目は、小山の田園都市に、路地の幅で、一步遅れを取ったような地域で、昔ながらの街並も残っています。

以前は細い路地も開けて、緩やかな坂道に、バラの庭の民家があります。

このバラが咲き始め、見頃になると、東五反田にあるねむの木の庭の朱色のバラ「プリンセスミチコ」が見頃を迎えます。



道路沿いのバラはつる性、花壇のバラより早咲きです。

旗の台の路地を華やかに彩るだけでなく、ねむの木の庭のバラのバラの成長も教えてくれる貴重なバラです。

近所の花の様子は、行ってみたい花の名所の花期を一度覚えたら、花の名所の見頃の時期を教えてください。身近な花を大切にしたいと思います。

平成22年5月22日

●撮影：内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月01日

蟬の幼虫を見つけました

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月10日

5月30日(日)、平塚二丁目町会会館近くの京陽公園で、土壌作り作業中に蟬の幼虫を見つけました。

蟬は土を掘り起こして見つけたのではなく、土壌作りをしている木枠の外側地面で、表面がはがれた穴の中で足を動かしていました。幼虫自身で薄い地表を剥がしたような状況で見えていました。

今年もう蟬の季節に入ってるのですねえ・・・



拡大写真↑



平成22年5月31日

志賀 勝 (記者NO. 060110)

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月10日

カルガモの里；品川の田園都市；小山巖島神社弁天池

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月11日

小山7丁目の小山巖島神社の弁天池で、カルガモの雛が生まれたのは5月25日、その後、26日には9羽にもなりました。その後の雛たちの様子です。



今は8羽になりましたが、母鳥が遠くから見守る中、池の中を元気よく泳ぎ回っていました。餌場の餌だけでなく、岩場でも、何かしら啄ばんでいました。

1週間もすれば勢いも良く、素早い泳ぎです。時折、母鳥と共に、陸に上がって散歩をしていました。



小山巖島神社は、大正時代に開かれた田園都市の一角にあり、田園都市開発の際に、地域の人たちが保護した、品川の自然で、池には湧水が溢れるほどで、かつては、弁天池から流れ出る小川もあり、西小山弁天通りとして名前が残っています。環状7号線工事の際に、溢れる水は止まり、ポンプでの汲み上げになっています。カルガモが飛来するようになったのは、平成9年頃との事、4年ほど前から、2代目に移りました。

カルガモ雛誕生前から、雛を待ち望み、多くの方が訪れていました。雛誕生の報道が流れてからは、池は大変な賑わいとのこと。田園都市の中の、カルガモの里になっています。

平成22年6月1日

●内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月11日

植物と動物のコミュニケーションの話

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月11日



花と蝶の関係で、蝶は花の蜜を吸って生活し、花は蝶に花粉を媒介してもらおう。花は蝶をひきつけるため花びらに複雑な模様や色のコントラストをつけ、紫外線を反射させて昆虫にアピールする。うまく花に招き入れたら花粉が虫につくようにおしべが虫の体にくっつきやすくなっています。蝶はさまざまな景色から花を見つける能力をもち、花はさまざまな景色から特別な表現で虫を引き寄せなければなりません。それは花びらをつけた複雑な表現だったり、葉っぱなどから浮き出するために白色や黄色や赤や青やさまざまな色の表現で、花びらは蜜標とよばれる色をつけ、その標識の役割のような表現で蜜がある中央部分を花びらの中にもう一つの花びらがあるかのような表現をします。蜜標には人には白一色にしか見えないが紫外線フィルターを通して写真を撮ると顕著な色のコントラストまでつけています。蝶と花、お互い生きていくために人にはない能力でコミュニケーションをとり支えあっています。おいしい果実をつける木々も鳥に食べてもらい、鳥の糞から種を広く大地にまいてもらうために、葉っぱから浮き出るように実の色は赤だったり黄色だったり。また、甘い匂いを放ったりしています。



平成22年6月2日

小野文義（環境記者NO.090107）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月11日

品川の花便り（芒種の頃）大名庭園；皐月薫る池田山公園

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月17日

池田山公園は、品川区の管理となった江戸時代の大名庭園、岡山藩主池田家の下屋敷跡で、東五反田の傾斜面にあり、上部には、ケヤキの広場、東屋があり、五反田地区の人たちの昼食や休憩の場所にも使われ、細い山道や、池の周りの斜面には、野生の花々が咲く都会の中の山里です。四季折々の花木もあちこちで楽しむ事が出来ます。ねむの木の庭と組み合わせた散歩道の一つです。



五月晴れの青空が見られないうちに、梅雨入りを前にした芒種、紫陽花の香りが強くなる時期です。今年は、品川区の花皐月が、由緒ある庭園を飾っていました。東屋に向かう足元には満開の皐月です。木陰では、未だ、蕾もあります。



東屋前からは、皐月の向こうに、緑の庭園、都会の山里が広がっています。細道は、皐月薫る山道です。



池周りに下りると、睡蓮の周りに、光る物体が見えます。亀の甲羅干しでした。花菖蒲も見られます。



池周りでは、額紫陽花が開花していました。白いガクヘンが眩しく光っていました。静かな池周りでは、小さな滝の音が響いています。暑い季節、涼みの場所になります。



池周りから、緑の山を見上げると、皐月の花が点在しています。
池周りと遊歩道付近は、紫陽花が次々と色付いていました。



皐月も、遊歩道の足下を飾っていました。他、タイサンボクも白い大きな花を開いていました。梅雨の時期に雨が降らない空梅雨が幾年も続いています。ドクダミも開花していますが、小雨に濡れる紫陽花が待ち遠しい都会の山里でした。お日様の光と違った、白い陽射しが強く、濃い緑の山里でも、木の葉や、皐月の花が白く光っていました。

平成22年6月8日

●内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月17日

伝統の品川品川神社 北の天王祭より 本社神輿渡御

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月17日

品川には、江戸時代あるいはそれ以前から伝わる伝統があり、旧東海道品川宿場町、漁師町他で、そのまま、あるいは形を変えて守られています。



品川神社の例大祭は、北の天王祭として、品川宿の人たちに受け継がれています。祭礼では、太々神楽の披露だけでなく、江戸時代から伝わる徳川家康縁の「天下ひとなめの面」を付けた本社神輿が、氏子町会を渡御することで知られています。午前7時、神社境内で本社神輿出御の式典が行われ、7時45分、江戸消防の木遣りを先頭に、渡御の始まりです。大太鼓、猿田彦と鳳輦の行列です。



小柄な神輿は、各所の氏子を訪ねます。年に一度の行事です。

午前8時、鳳輦の行列の後に、「天下ひとなめの面」を付けた惣町神輿が出御です。笛の音に合わせ、神輿の脇に付けられた太鼓（大拍子）が打たれ、神輿を運行します。急な階段は、「おいさ、おいさ」の掛け声と、笛太鼓の音で、賑やかな神輿の運行になりました。



無事階段を下り、第一京浜国道に出て、北品川、御殿山、袖ヶ崎の町会に向かいます。



午後、御殿山から戻った惣町神輿から、「天下ひとなめの面」は、中神輿に移さ

れ、旧東海道を練り歩きました。街並の様子は変わりつつありますが、品川っこの心意気は変わりません。建物を置き換えれば、江戸の街並のお祭りかもしれません。お祭り、神輿の渡御を祝い、祭囃子に合わせて踊る姿もありました。



旧東海道から東へ、八ツ山地区を渡御し、品川浦沿いに戻ってきました。鯨塚のある品川浦沿いは、駐車場として利用されていますが、中神輿は大きく舞いました。



その後、旧東海道を思う存分練り歩き、午後7時過ぎには、昔の参道、サクセス通りから宮入渡御です。各町会の高張提灯が、神社の階段を登って行きました。神社前の第一京浜国道周辺は、午後6時頃から、宮入渡御、神輿の階段上りを見ようという人たちが身動き取れないほどでした。勢いのいい掛け声、大拍子に笛の音、中神輿が神社前の国道を舞いました。暫し交通止めです。納めの太鼓が打たれ、神輿は降ろされ、観客から大きな拍手です。「天下ひとなめの面」が、惣町神輿に移され、いよいよ最後の渡御、階段上りです。階段の両脇は提灯、明りはこれだけです。暗い階段を、少しずつ、上って行きます。時折、神輿が下がり始め、観客からは溜息が洩れます。階段の上部では、担ぎ手たちが待ち受けています。



午後7時半を過ぎて、階段を上りきり、観客から大きな拍手が沸きました。この後、神輿は境内に戻り、境内を一回りして、渡御を終了します。神輿が通り過ぎた後は、急な階段前は、露店を中心に、お祭りの続きです。品川に残る伝統のお祭りです。

平成22年6月5日

●内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月17日

みんなで野菜を育てています

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月18日

平塚二丁目町会では町会会館の屋上に無灌水プランターを設置しています。無灌水プランターとは、プランターの底に雨水を蓄え、水撒きが不要という優れたもののプランターです。

最近、パセリ（左）ととうがらし（右）の苗を植えました。実が成ったらまたご報告したいと思います。



京陽公園で生ゴミを使って土壌を熟成し、会員の実家から苗をいただき、植付けて収穫と、会員がお互い協力しながら野菜を育てています。

町会会館前には茄子が実っており、その中の2本を収穫しました。

会員の方の糠床を借りて漬け、美味しい茄子の糠漬けをみんなでいただきました。



町会会員が街中で自然に親しめる環境作りをしながら楽しんでいます。

平成22年6月14日

志賀 勝（記者NO. 060110）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月18日

東京都立大井ふ頭中央海浜公園へチョウの観察に行ってきました

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月23日

この公園（品川区八潮）は京浜運河に沿って水辺に親しめる公園で、釣りをすることができ、この日も釣りを楽しむ人、バーベキューをする人も見られました（バーベキュー解放区があります）。また森と干潟があるため、多くの野鳥がやってきます。野鳥観察小屋や観察壁もありますので野鳥観察には最適です。残念ながら当日の天気は曇りで、あまりチョウは飛んでいませんでした。



入口



区HPにも載っていたオブジェのある広場

へ行ってみました。



モンシロチョウがタンポポの蜜を吸っていました。

森林浴が都会で出来ま

す。

撮影 平成22年6月5日

小野文義（環境記者NO.090107）



カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月23日

品川の花便り（続・芒種の頃）心に残したい品川；旗の台の紫陽花

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月25日

旗の台は荏原の中心であった筍等農耕の村が、京浜工業地帯の一員として、鉄道等により急速に発展した昭和の町、源氏の旗揚げでその名が残っている地域です。梅雨入りしたものの、空梅雨が続き、しとしと雨の梅雨ではありません。その所為か、今年の路地の紫陽花は元気がありません。葉は多いのに、花は少なく、日本の四季から梅雨が消えてしまったことを感じるこの頃です。でも、例年の場所で、幾つか見つけることができました。



旗の台4丁目では、真赤な紫陽花です。毎年咲いています。

次の路地では、紫陽花ではありませんが、毎年咲くタチアオイです。



旗の台3丁目の、立会川児童遊園では、中ほどこで、額紫陽花が見られました。

近くの民家では、例年の白い紫陽花です。



公園通りの紫陽花は、白っぽいのですが、大きく膨らんでいました。

近くの路地では、例年見られる紅い紫陽花がありました。



荏原町駅前の法蓮寺では、山門横で額紫陽花が迎えてくれました。

山門を入ると、左手に荏原七福神、恵比寿様の祠があり、例年のように、ナンテンが開花していました。



境内中ほどでは、銀杏、シキミに囲まれた菩提樹の花が開花していました。珍しく、蜂が飛んできました。昆虫を見るのは、久々です。皆いなくなって、無事だったのかと声を掛けたいくらいでした。

菩提樹は、区内でも珍しい木で、他、荏原地区の葛原神社にあります。

法蓮寺は、珍しい木だけでなく、庭園も美しい所で、隣接の縁の旗岡八幡神社と共に、しながわ百景に選ばれています。紫陽花を求めての散策が、珍しい花との出会いになりました。

平成22年6月17日

●内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月25日

品川の田園都市 ; カルガモの里 小山巖島神社のお祭り

カテゴリ : 平成22年度

投稿日 : 2010年06月28日

品川には、大正時代に開かれた田園都市が残っています。



小山巖島神社は、大正時代に開かれた田園都市の一角にあり、田園都市開発の際に、地域の人たちが保護した、品川の自然の守り神で、池には湧水が溢れるほどで、弁天池から流れ出る小川もあったとの事、西小山弁天通りとして名前が残っています。環状7号線工事の際に、溢れる水は止まり、ポンプでの汲み上げになっています。

平成9年頃からカルガモが飛来するようになり、毎年、雛の誕生に合わせるかのように人々は集い、自然の豊かさを感じている憩いの場所です。

例年、6月の初にお祭りが行われます。田園都市開発当時の人たちに縁の人、近隣の人たちが、集まります。



10時頃から、大きなクヌギの古木の下で、お土産用の花鉢作りです。包装材を使った手作りの花瓶に相当します。本殿では、掃除、片付け、飾りつけ等、お祭りの準備で大忙しでした。



神社と言っても江戸時代から残る地域の祠、近くの小山八幡神社の神職により、祭儀が執り行われました。午前11時から始まった祭儀も、玉串を全員が捧げて、小山八幡神社の神職により、カルガモの雛誕生と、祭の時期の不思議な一致等、神社についての話がありました。



祭儀の締めは、神酒でお祝いの乾杯です。その後は、久々の対面も多く、お酒を酌み交わしたり、食事をしながら、田園都市開発の昔話や、カルガモの話等、話題に尽きないようでした。



藤棚の下では、恒例の綿菓子も準備されました。帰りにはお花のお土産です。ピルを忘れた小山の自然の一角、カルガモの里のお祭りです。

大正の大震災にも耐えた田園都市、その自然が、カルガモの里となり、今も、地域の人たちに生きています。自然は生きている、だから強い、その自然を生かしたまま守ることこそ、最近話題になっている環境問題、防災対策の基本であるような気がしました。カルガモの里のお祭りが語ってくれました。

平成22年6月9日

●内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年06月28日

品川の花便り（夏至の前）大名庭園；池周りの紫陽花 戸越公園

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年07月05日

戸越公園は、品川区の管理となった熊本藩主細川侯の抱屋敷の大名庭園で、広い池と東屋、古木の森、薪能の広場等、地域の人憩いの広場になっています。薪能の広場、池前の広場は、お花見広場としても利用されています。



紫陽花の季節、紫陽花は、池周りに配置してあります。戸越体育館脇の西口から入ると、正面は池、池の中に紫陽花がありました。鯉も泳いでいます。その遊歩道は、紫陽花の遊歩道になっています。垣根が無ければ、広く感じます。



紫陽花の遊歩道を過ぎると、東屋のある池前の広場です。池の向こうに紫陽花が見えます。東屋からは、オペラグラスがあれば、庭園の池の紫陽花を観賞できます。「この席が一番ですよ、50年も住んでいて、変わりの無い池、昔、睡蓮もあったのを覚えていますよ」年輩の方が語りかけてきました。



池周りを進むと、生垣に、紫陽花の列です。

小さな器のような形のガクヘンです、おたふく紫陽花と呼ばれています。



額紫陽花も形が変わったものがあります。池の奥、木の欄干がアルミに変わって、数年になりますが、未だ、目に馴染んでいません。戸越公園である事を忘れてしまいます。その橋の両側に紫陽花があります。



池の裏、戸越の森の中の遊歩道を進みます。垣根の間から、池を見る事が出来、東屋から見た紫陽花も、近くで見ることが出来ます。庭園の裏方を見る気分です。池に注ぎこむせせらぎ付近は、森の木々で暗い場所、額紫陽花が、ひっそりと咲いています。元の遊歩道に戻ります。

平成22年6月19日

●内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年07月05日

第12回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2010年07月16日

平成22年7月3日（土）、第12回環境記者情報交換会が8名の環境記者の出席のもとで行われました。今年度第1回目の環境記者情報交換会です。

★はじめにインタメディア代表の佐山吉孝様から、「昔のおもかげを探してまち歩き／その四、歴史の交差点、後地（武蔵小山）を中心に」と題してお話を伺いました。



林試の森公園、後地交差点付近から中原街道、平塚に至る通りや街並みについてお話いただきました。その一部をご紹介します。

(旧)中原街道は古い東海道で、海沿いの旧東海道の整備が遅れていたため、それが整備されるまではこちらがよく利用されていたようです。昔はお酢を運んだことから御酢街道とも言われていました。

昔の街道や今も昔の名残を見せる街並みがあり、そういったことを思いながら歩くと違った街の見え方がします。あさひ公園にある水車のモニュメントで、むかしこの辺りに品川用水が流れていたと書かれています。



後地交差点



あさひ公園にある水車のモニュメント



孟宗筍

栽培記念碑

地名の起こりがよく議論になりますが、「桐ヶ谷通り」は桐の木が多かったのでしょう。「西霧ヶ谷公園」は目黒川が近く、用水があったり、山あり谷ありで霧が発生し易かったのでしょうか。同じ「きり」でも違った意味の漢字が使われています。

薩摩藩と付き合いがあった山路次郎兵衛が、薩摩藩から筍の根っこをもらい受けてきて、この辺りで栽培を始めた。「戸越のタケノコ、目黒のタケノコ飯」といいますが、その始まりといわれています。



林試の森公園はいつ行っても気持ちが落ち着きます。クスノキ、ユーカリの木、スズカケの木など。スズカケの木の緑は、ついつい上を見上げたくなくなってしまいま

す。自然に触れることができるひと時です。

★続いて環境記者の皆さんが取り組んでいる活動紹介と情報交換です。



(左から、勝山さん、安田さん、高塚さん、丸山さん)

・勝山さん：品川環境推進会議のメンバーで、先日のエコフェスティバルの運営のお手伝いをしました。フェスティバルに向けて「エコクイズ」を作りましたが、これはエコについて一緒に楽しみながら勉強しようというものです。また7月31日（日）には宮前商店街をメイン会場として「打ち水大作戦」を開催します。

エコを推進する様々なマークがあります。'ecoだより'には「古紙を配合した用紙で作成しています」と書かれていますが、印刷関係でも技術の進歩でCO2削減ができるようになっているとのこと。

・安田さん：品川区の体育指導員で、年4回イキキウォーキングの運営協力者として参加しています。5月に開催した<日野学園～レインボーブリッジ～お台場>の約9kmのウォーキングには477名の参加がありました。

自分は東京出身ではなく、大都会の東京には緑が少ないと思っていましたが、結構自然があり、今も新たな発見をしています。

・高塚さん：以前から大崎に住んでおり、子どもの頃から草花や虫が大好きです。百反道路の再開発が進み、昔の姿が大きく変わりつつあり、移りゆく姿を見ています。

・丸山さん：しながわ区民公園の管理をしており、また草花や木についての勉強をしています。しながわ区民公園は開園以来20数年を経過し、人工林が自然林になりつつあり、いま非常に面白い時期になっています。木は大きくなり、虫なども自然の状態で生きています。最近では狸やヘビも出没するようになり、先日はヘビのガラスに対する恐怖行動をこの目で見ました。こんな近くで生態系を見ることができます。



(左から、志賀さん、門倉さん、畔柳さん、吉岡さん)

・志賀さん：水遣り不要のプランターの土を熟成させた土に入れ替え、先月（6月）下旬に200個を各家の道路際に置きました。屋上緑化で若葉色の常緑キリン草が30cmほどに育っていますが、昨年11月から水を撒くことなく、また葉の手入れをすることもなく放置しています。虫刺されにも効くらしく食用にもなります。

・門倉さん：林試の森公園の緑を楽しんでいます。いまはタイサンボクの花がきれいに咲いていますが、その名前の由来は「大杯」からきていると聞いています。落ちたばかりのお椀状の花びらには香りが残っており、香水のギャランの香りがします（？）。モクゲンジの種子からは数珠が作れる木で、花は小さく金色に咲いているように見え、落ちてくるときには黄金色の雨のように見えるところから、英語名では'Golden Rain Tree'といいます。

ボランティアで林試の森公園を掃除していますが、通りすがりに「きれいにしてくださいまして」と言ってくださる方もあり、うれしいことです。

・畔柳さん：歩いているとき見かける歩道上のポイ捨てごみをその都度拾って、街をきれいにするためのボランティア活動をしています。JR五反田駅からユースポート間の柵で囲まれた土の見える部分ですが、最近「花の鉢植え」がところどころに置かれるようになりました。街に「うるおい」が感じられるようになりました。

・吉岡さん：自分が所属している会社が大田区から品川区に移転してきました。大田区では住宅地にあり、地域とのかかわりがありましたが、いまは駅近くの繁華街にあり地域とのかかわりがありません。これから地域の活動に参加していくつもりです。個人的には昆虫や鳥に興味があり、今後は定期的に観察する場、フィールドを見つけたいと思っています。

・佐山さん：ここで4年間くらい話をしていますが、最初はどうやったら記事が書き易いかということから、私はこんな風に街を見ているとか、街歩きをしながらこんな見方もあるのではという話をしてきました。もう一度原点に立ち返って記事の書き方についてもお話をさせていただくことを考えましょう。

今回も会は大いに盛り上がり、予定時間を超過してしまいました。
記者のみなさま大変お疲れ様でした。

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2010年07月16日

品川の歴史の里；品川神社の紫陽花

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年07月29日

品川神社は、昔の東海寺の塔頭で、北の天王として親しまれている品川の歴史の里、東側は、第一京浜国道により、参道等が切り開かれて、急な階段になっています。この日は、境内、富士塚で、品川富士山開きが行われました。



品川神社の紫陽花は、古式ゆかしい神社を彩っています。国道に面した品川富士の斜面にも点在していますが、急な階段の脇、品川富士登山口付近の石灯籠の周りで、青系の紫陽花が、迎えてくれます。急がずゆっくり上りなさいと言っているようです。



階段を上ると、境内右手、広場入口の石鳥居前には茅の輪が設置されていて、近くでは、額紫陽花が静かに咲いています。小花も数多く開花していました。



広場の神楽殿脇でも、本殿と境内に彩りを添えていました。社務所前、手水舎脇の紫陽花は、ここが品川神社の本殿ですと語っているかのようでした。



時期的には、梅雨の末期半夏所の頃、しっとりした梅雨の気候でなく、白い陽射しの強い中で、本来の紫陽花の色が隠れていましたが、境内を飾る紫陽花でした。

平成22年7月6日

内田 雅弘

カテゴリ: 平成22年度

投稿日: 2010年07月29日

甦る品川：第14回立会川環境美化運動

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年08月02日

7月7日の川の日になんだ立会川環境美化運動が、品川区、東京都、地域の住民と合同で、月見橋から浜川ポンプ所までと、勝島運河、愛称しながわ花海道で行われました。川や周辺住宅地の清掃と、環境美化の広報活動です。立会川は、目黒碑文谷から流れる小川、多くの場所がふたかけされていますが、河口から近くの月見橋までは、川として残っています。



しながわ花海道は、昔は海岸、その後、勝島運河になり、更に運河の一部埋立てにより、実質立会川河口となり、8年程前に、地域の人たちにより、お花畑に変身した所です。立会川そのものは、入江になった感じです。



今回は、新たに、しながわ花海道を含めた事により、品川区、東京都港湾局、下水道局、建設局、大井消防署、大井第一町会連合会より立会川川沿い・花海道沿いの町会・商店会、勝島運河クラブ等、多くの団体の参加になりました。



午後3時、浜川ポンプ所で開会式、濱野品川区長の挨拶、大井第一町会連合会会長の開始宣言で、環境美化運動の開始です。参加者は「川をきれいにしましょう」「運河をきれいにしましょう」の襷を掛け、先ず、しながわ花海道へ向かいました。



先日、地域の人たちにより、コスモスの種蒔きが行われましたが、この日の為に用意された畑で、濱野区長他、小学生、消防署の人たちも種蒔きを行いました。また、七夕の7日は過ぎましたが、「川を美しく」等環境美化の思いを短冊に書き、京急立会川駅付近の七夕飾りを作りました。



運

河の清掃は、勝島運河クラブのボートで出発です。種蒔きの見学で、環境美化の広報活動は、一時待機しましたが、しながわ花海道の土手を進みました。残った児童センターの児童たちが、水辺の塵拾いです。



途

中から、旧東海道に出て広報活動を行いました。「川をきれいにしましょう」「煙草の投げ捨ては止めましょう」「運河をきれいにしましょう」「地域の美化に協力しましょう」等、呼びかけながら進みました。濱野品川区長も、プラカードを手に先頭を歩きました。しながわ花海道、旧東海道広報班はこの後、浜川ポンプ所に戻りました。



しながわ花海道から分かれた、恒例の立会川広報班は、月見橋まで、清掃と広報活動です。月見橋付近では、川沿いに設置された溶岩ポットの花々が、美化運動の日頃を物語っていました。花々だけでなく、川沿いの町会では、月一回、町会の皆で清掃活動を行っています。マイクの声が響き渡っていました。



また、花々だけでなく、「みんなの力できれいな川を」「私たちのまち 私たちの川」との看板も設置してある川沿いです。



川沿いの後は、駅近くの商店街を廻り、浜川ポンプ所に戻りました。



運河ではボートによる清掃、川では、品川区、東京都合同で、小型ボート、筏での清掃です。道路では、集まった塵も纏めて引き取りました。



駅前川の橋には七夕飾りの下「立会川浄化施設運転中」の表示もあります。午後4時半近く、清掃、広報に出た人たちもポンプ所に戻り、東京都下水道局局長により終了宣言が行われました。



立会川は、品川用水と共に、品川の農業用水、農業から工業に変わり、小川は、見捨てられた存在になってしまったのです。下水ではありません、川魚も住んでいた小川です。美化運動も、昔の小川を思い起こしたほうが、より、効果的かもしれません。小川の水は生きています。

平成22年7月10日

内田 雅弘

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年08月02日

品川の花便り（大暑の頃、ねむの木の庭）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年08月11日

品川には、平成になって新しく姿を変えた街並みがあります。東五反田地区もその一つ、ねむの木の庭は、皇后様縁の地を、平成16年に品川区が整備した花の庭園です。

大暑という夏の盛り、本来の最高気温32℃を越える日々が続き、田園都市から変貌した東五反田の台地は、ビルの熱気に包まれていました。



花の庭園のねむの木、南国の花も、早々と終わりを告げていました。



「えー！もう咲いていないんですか」ねむの木を訪ねて来た人が居ました。
「開花は半夏生の頃、近年早くなっていますよ。夕方になると葉を閉じて開花します」

「夕方に開花？」

「そう、そこの黄色の花、ユウスゲも同じです」

夕暮れに咲く花の話題になりました。



庭園では、今までのナデシコに変わり、本来の「カワラナデシコ」が開花しました。

ピンク（赤系）が主流ですが、ねむの木の庭の「カワラナデシコ」は、珍しい「白」です。ナデシコより小柄です。



庭園の奥では、黄色のオミナエシの花が揃い始めました。秋の七草の一つ、2週間後は、立秋です。



余分な太陽光がなければ、蜂たちが飛び交っているオミナエシです。極暑の候は、本来、立秋を予感させる季節です。

他、花の庭園では、ハルジオン、アケボノフロウ等、可愛い花たちが待っています。

平成22年7月28日

●内田 雅弘

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年08月11日

品川の花便り（立秋の頃）大名庭園；緑の避暑地 池田山公園

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年08月24日

池田山公園は、品川区の管理となった江戸時代の大名庭園、岡山藩主池田家の下屋敷跡で、東五反田の傾斜面にあり、上部には、ケヤキの広場、東屋があり、五反田地区の人たちの昼食や休憩の場所にも使われ、細い山道や、池の周りの斜面には、野生の花々が咲く都会の中の山里です。

四季折々の花木もあちこちで楽しむ事が出来ます。ねむの木や庭と組み合わせた散歩道の一つです。



立秋を迎えたとは言え、猛暑が続く夏日、池田山公園は緑の避暑地です。管理事務所横のケヤキの広場では親子連れが避暑に訪れていました。幼い子が「裸足になりたい」うらやましい、懐かしい言葉です。裸足といえば、小学校でも、運動場は裸足、足洗い場というのがありました。大地とのふれあい、現代人が忘れていた事です。地下資源で作った舗装が無ければ、大地の本当の暖かさが感じられます。今は、靴を通しても、火山の縁を歩いているように「暑い」が本音です。石炭が変身した可燃性物質の道路、常識では考えつかない発想です。



広場を横目に東屋へ向かいます。カノコユリが元気です。東屋横の百日紅、時期も終わりに近づいたようで、黒い実が幾つも付いていました。



見下ろせば、変わらない山里の緑です。



緑でも、例年、萩の花が開花する頃ですが、今年は蕾も見られません。緑ふさふさです。



池周りも、緑です。藪ミヨウガにも黒い実が付きました。



滝のせせらぎに集う若者たちも居ました。帰り際に、賑やかな声「刺されたー」皆、何処か、蚊に刺されたようです。例年ほどではありませんが、蚊は生きていたようです。射されるのは嫌でも、虫の居なくなった今、ホッとする感じです。「生きていたのか」と言いたくなります。

遊歩道では、眩しい空の下、キョウチクトウが次々と開花していました。秋の気配と言うより、緑の避暑地を、再度感じた都会の山里でした。

平成22年8月9日

●内田雅弘（記者NO.060104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年08月24日

屋上緑化に常緑キリンソウ！旺盛な生命力です

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年08月31日

平塚二丁目町会会館の屋上緑化に使われている常緑キリンソウは、植えてから雨水だけで一度も水遣りをすることなく一年半が過ぎました。

真冬でも枯れることなく、枯葉一枚つけることもなく春を迎え、6月下旬から8月の現在、順々に花を咲かせ、不思議な一年半を過ごしました。

小さな花弁が落ちて飛散するようなことはなく、ドレイン（雨水を排除するための管）を詰まらせることもなく、建物を傷めません。

屋上は35℃を超える日々の中、暑さをものともせず太く大きく育った株が、自重に耐えられないで倒れて黒い空間が出来ている写真②、倒れた茎根の元部分から芽をだし、繁茂し始めた写真③、完全に修復した姿の写真④、太く大きくなった株が隣の株に寄りかかっている写真⑤、常緑キリンソウの百態をお届けいたします。

黄緑色の葉が不足する季節ですが、葉が空気中から水分を得る常緑キリンソウの変わらぬ生命力の旺盛さに、街の人々が日々驚いています。

常緑キリンソウを使った屋上緑化は、平塚二丁目町会が、国内最初の屋上緑化事例であり、多くの見学者が訪れています。また現在、座布団方式に改良を加えた型で、都内学校や都営住宅等での普及が進んでいます。

常緑キリンソウにあやかり、暑さに負けず健康に過ごしたいものです。

①



②



③



④



⑤



平成22年8月18日

志賀 勝（記者NO.060110）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年08月31日

水まき大作戦

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年08月31日

7月19日（祝）、平塚二丁目の京陽公園で「水まき大作戦」を行いました。雨水を京陽公園地下貯水槽に貯め、町会ミニポンプ放水訓練時にも使用している水を使い、お母さん達と一緒に放水体験もしました。

公園に常備されている土嚢を運び大きな池を作り、泥鯰（どじょう）つかみをしながら暑さを吹き飛ばしました。泥鯰には水道の水は適さないため、前々日から井戸水を用意し、当日に備えました。

公園に遊びに来ていた幼児も参加した3時間余りのイベントでした。この後、「池」の水で公園に打ち水をしました。

平塚二町目町会内には多くの井戸があり、現在も活躍（非飲料水）しています。町会会館も井戸水を使い、プランターへの散水、イベントの道具類洗い等に、一年を通して使用しています。現在、町会内で活躍している井戸を探してみようという「井戸地図」作りが話題になっています。地下8mに水脈があることが確認されています。

戸越銀座商栄会通りに平行した住宅街には、高さ4mの崖が続いていること、商店街通りが小川だったこと、井戸が多かったこと、池があった話しも納得できる平塚二町目です。



町会会館と同様、既存井戸に自動ポンプを設置し、井戸水を利用しています。写真の井戸は、深さ5.3m、水位まで3.9mでした。



以上
平成22年8月18日
志賀 勝（記者NO.060110）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年08月31日

品川の花便り（白露の頃）品川に生きる；猛暑に耐える ねむの木の庭

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年09月29日



ねむの木の庭は、皇后様縁の地を、平成16年に品川区が整備した花の庭園です。猛暑の折の白露の日は、台風とやらで突然雨に恵まれ、静まった次の日は、朝から、昨年と同じほどまで気温も下がりました。

温暖化の影響をまともに受けている東五反田の高台、ねむの木の庭は、庭園の手入れが行われていました。傷んだ花々の撤去や、手入れ、新しい花々の追加等、検討されていました。



道路沿いのカクトラノオは満開状態、黒いアゲハチョウが飛び廻っていました。カクトラノオの下では、タマスダレが開花していました。



他にも、シュウメイギクが開花していました。蕾が多くあります。例年より少ないようですが、ヤブランも姿を見せました。



庭園の奥では、ナツハゼの色が赤味を増したようです。オミナエシは、現状維持でした。7月からの猛暑に耐えていたねむの木の庭でした。

平成22年9月10日

内田 雅弘

カテゴリ: 平成22年度

投稿日: 2010年09月29日

平井鳥取県知事、宮地部長が常緑キリンソウを視察

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月05日

平塚二丁目町会会館屋上の常緑キリンソウの現状をお知らせします。
中原街道沿いのツツジなど、焼けてしまっている葉もありますが、常緑キリンソウはこの夏の猛暑にも耐え（一部には焼けた葉もありましたが）、最近では根元の茎から新芽も出ています。旺盛な生命力にただ脱帽するばかりです。



9月26日（日）には平井鳥取県知事、宮地部長（品川区地域振興事業部）が屋上の常緑キリンソウを視察され、「水やりすることなく、雨水だけでこの1年が経過しようとしている」との説明に、驚きと感心を示しておられました。



平井鳥取県知事（前面中央）と宮地部長（前面左）

戸越銀座商店街では、鳥取県特産品がアンテナショップ8店舗で産直開始されています。地域交流が継続していくことを、鳥取県担当者と商店街理事長と一緒に願っているところです。

以上

平成22年10月7日

志賀 勝（記者NO.060110）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月05日

しながわ区民公園のドングリ

カテゴリ：平成22年度

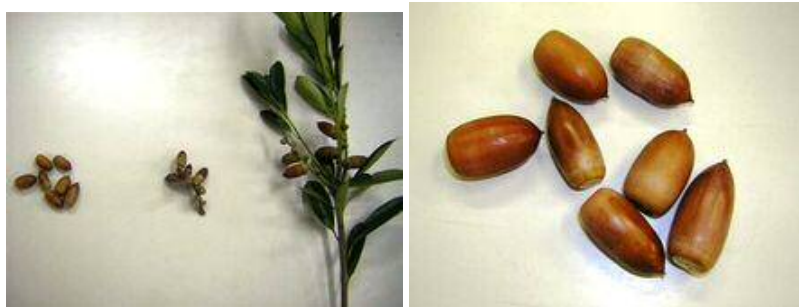
投稿日：2010年11月08日

夏の猛暑から、このところ平常気温になっているようです。
しながわ区民公園では、いま沢山のドングリが落ちていて季節を感じさせてくれます。
区民公園にはいろいろな種類のドングリがありますので、それらをご紹介します。
まだまだ木に沢山のドングリが付いています。これからが旬のようです。

シイノキ



マテバシイ



シラカシ



クヌギ



平成22年10月21日

丸山 均 (記者NO. 090105)

カテゴリ: 平成22年度

投稿日: 2010年11月08日

金木犀香る荏原の路地（寒露を前に）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月08日



彼岸花に続き路地に漂う香りは金木犀。気温はまだ残暑の候、彼岸花同様時期が来たので開花した、そんな感じです。さらに彼岸花同様、あちこちで開花しました。木が増えたようです。

旗の台五丁目では十メートルを越す大木は六年ほど前に姿を消し、この民家では改築後から育てています。勢いのある木です。

もくせいは何故か動物の「さい」「犀」を使って「木犀」犀の角に花のかたまりが似ているせいかもしれません。木の精とも言うていいようですが、木精はメチルアルコールです。奪われたみたいです。



(恵徳

学園)

旗の台五丁目は小山の田園都市に一步遅れた小さな田園です。

山を切り開いた人達の子孫も街を守っています。



東急大井町線荏原町駅前の法蓮寺は金木犀の大きな垣根です。葉の陰に隠れています。法蓮寺は旗の台の由来となった源氏の旗揚げで知られる旗岡八幡神社と共に荏原の中心です。近くの中延四丁目では垣根から道路の様子を見学中。



中延二丁目東急池上線、荏原中延駅前、大きな垣根に金木犀と銀木犀、木犀といえ

ば銀木犀でも人間は「金」に目が行くようです。地下資源ではなく、生物の金が大
切です。犀の角は解毒剤、木の精の甘い香に酔いしれ犀角で心の中を解毒する木犀
です。木星と共に自然界の生命を握っているようです。



荏原の東、二葉一丁目に品川区役所地域の窓口、荏原第五地域センターがありま
す。立会川や品川用水が流れていた下蛇窪村と呼ばれた農村地帯です。「荏原第五
地域センター」前にはその名残で金木犀が並び、地域の人たちを迎えてくれます。
精の香、犀の角です。



金木犀の隣には品川区立荏原第三中学校の二葉の森が続きます。路地を挟んで品川
区立大間窪小学校、春には桜並木の路地です。大きな「えんじゅ」があります。木
と鬼で槐（えんじゅ）、強くたくましい大きな木です。槐の実はそのような子供た
ちです。



槐の下には金木犀もあります。小中一貫校の改築工事があるとのこと、向かい合わ
せ小学校と中学校、一号棟、二号棟、三号棟と名前だけで住みそうですね、二葉の
森が子供たちを育てています。



他、西中延三丁目では時期遅れの白い彼岸花、風船かずらが、旗の台五丁目ではは

ぜが紅く色付いていました。金木犀の香で異常気象という人災を浄化したいものです。

平成22年9月7日

内田 雅弘

カテゴリ: 平成22年度

投稿日: 2010年11月08日

立会道路の彼岸花（秋分明け）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月08日



立会道路は目黒碑文谷池や品川用水、小山弁天池からの湧水が流れていた小川、立会川をふたかけをして整備された道路で、品川区内では中原街道から第二京浜国道までと大井町～月見橋の間が歩行者向けの遊歩道、公園になっています。荏原の田んぼの中の小川も電車開通による街並みの変化には勝てなかったようです。

彼岸花は田んぼのあぜ道の花。昔から住む人たちは、歩道沿いに彼岸花を育てています。

旗の台三丁目、東急大井町線荏原町駅の裏は毎年隠れた名所です。



中延五丁目付近は荏原町商店街の裏です。古民家の庭には彼岸花が溢れていました。

中延六丁目では隠れるように咲いています。



第二京浜国道を東に渡ると大井町からの自動車道になります。

西大井六丁目、原っぱ公園付近の垣根脇に今年も開花しました。

彼岸花は土の中で季節を感じ、秋分の頃、一斉に開花する花。今年は秋分の頃開花していた池田山公園。今開花したものの、十日以上の開きがあります。一つ所でも同じではありません。単に秋が遅れたとは言えないようです。花を付けたまま根本から折れるように倒れている花もあります。過剰の放射線で品種が変わってしまった、そんな感じです。

立会道路は元は小川、彼岸花は田んぼの小川、あぜ道に似合う花です。

平成22年10月2日

内田 雅弘

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月08日

曼珠沙華（秋分明け）；西大井の森 養玉院、如来寺

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月08日

大井の大仏で知られる西大井の養玉院如来寺は西大井の森です。梅や桜等数多くの樹木に囲まれ、参道や境内では古代蓮や蒲等も見られる貴重な自然が生きています。



(山門)

内側)

蓮の花は曼陀羅華、彼岸花は曼珠沙華と呼ばれています。あぜ道とお寺、雰囲気の違いのようです。山門、参道、境内と朱色の花が続きます。



(参道)



(本殿手前)

(境内)



大仏殿、如来堂の前に並んでいます。山門付近と気候が違う？ほとんど花期を終えていました。

花は咲く場所で、時期で趣を変えます。あぜ道では田んぼを虫から守り、散歩道では心の安らぎ、山門は出迎、大仏殿は秋分の花のようです。

平成22年10月2日

内田 雅弘

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月08日

ねむの木の庭（霜降）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月15日



木の実が熟し、木々の緑が紅く変わり霜が降りる候、東五反田の台地にある皇后様縁の地、ねむの木の庭は品川の路地同様八月末の残暑の候秋が足踏みのままです。夏はげは早くからヤマボウシや桐等の秋色を待っています。十月は菊月と呼ばれ菊の花の季節です。庭園ではしゅうめい菊が見頃を迎えていました。



しゅうめい菊は「キンポウゲ科」の改良品種、菊らしく庭園の秋を飾っています。



梅の木の近くでは浜菊が、正門横ではユリオブスデージーが一輪、開花していました。



フェンスでは朱色の薔薇が迎えてくれました。朱色の薔薇は花壇でも輝いていました。

初秋（残暑の候）と晩秋の花に出会った花の庭園でした。

平成22年10月23日

内田 雅弘

カテゴリ: 平成22年度

投稿日: 2010年11月15日

秋色を待つ都会の山里（霜降）大名庭園 池田山公園

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月15日



東五反田の斜面にある池田山公園は岡山藩主池田候の大名庭園跡地、樹木の豊富な都会の山里です。霜降を向かえ本来、紅葉に埋まる里山、八月の残暑から逃げ出せないようです。百日紅が終わった東屋からはほんのりと秋色を感じることが出来ました。

遊歩道からもその気配を感じました。



遊歩道からは色付き始めた「はげ」が見られます。旗の台より半月遅れています。遊歩道で 木のイイギリに「木づた」が住みついでいて、小さな花を開きました。他の樹木は実が熟する季節、実が付くのはもっと寒くなってからのようです。



木づたの花と蕾

広場入口でシソの花に似た黄緑の花が咲いていました。濃い紫・紅が紫蘇、苦い色 都会の山里はねむの木の庭同様、本物の秋を待ちわびていました。

平成22年10月23日

内田 雅弘

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月15日

しながわ区民公園の秋

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月18日

しながわ区民公園には多くの樹木があり、11月初めごろから紅葉がはじまりました。

園内に「もみじ小路」があり真っ赤に色づくもみじを見ることができますが、紅葉にはまだ早いようです。

公園中央にある噴水のまわりにある赤ケヤキや桜が色づいています。



公園内にあるプールが、夏が終わると釣り堀に早変わりです。



しながわ水族館の近くの建物7階から見た紅葉です。



公園には実のなる木も多くあり、夏ミカンや玉ねぎみたいなザクロを見つけました。



平成22年11月14日
撮影：真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月18日

“あれコレナ-ニ”

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月25日

ブロック塀の中の不思議な植物、それは名前のないブドウの木でした。

6年前に遡ります。土を入れた直径50cm、高さ60cmのビニールのバケツに槇の木を育てていました。そこに突然小さな植物が誕生しました。

あまり関心が無く見捨てられて2年、それは何とぶどう科の植物でした。どうしてこんなところに？ どうも鳥が種を運んできたものと思われます。それからどうでしょう、槇の木に負けぬように年々成長して、昨年5年目には実をつけるまでになりました。黄金虫に葉を食べられ食べられしながら熟した実は、近所の子供さんや保育園の園児さんに届けられ、皆さんに喜んでもらいました。

今年は、驚くことに黄金虫、蝶の幼虫にも負けずにたわわに実を付けています。近々熟したところで、近所の子供さんに提供して喜んでもらうことを楽しみに丹精しています。



平成22年11月21日

撮影：中西義治(記者NO.060108)

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月25日

COP10会場へ行ってきました

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月28日

10月24日（日）、25日（月）の2日間、COP10会場（名古屋）に行ってきました。そのときの様子を写真を載せて簡単に報告いたします。但し、COP10の本題である生物多様性やカルタヘナ議定書の会場は、今会議の最終段階に入る27日から29日ということで、見られませんでした。従って本会場前に多くの環境保全を紹介するブースが出ていましたのでその一部を紹介します。因みに名古屋でのCOP10のテーマは、「地球のいのち、つないでいこう」です。

■会場前広場の様子



広場に入ると「生物多様性交流フェア」という看板がありその周りには、白いテント（出展ブース全て）が196箇所、フェスティバルコーナーのテントを入れると200箇所以上あり回りきれませんでした。

右上の写真、一番奥に見える茶色い建物は、名古屋学院大学です。こちらの体育館内でも環境保全活動について講演が開かれています。



上の写真は国際会議ですので、外国から来た方が大変多く、英語の出来ない私めには、脅威でした。

広場に入って200mくらい進んだ広場中央で、日本を始め様々な国や土地から環境保全を訴える集まりがあり、私が覗いたときは、韓国から九州地方へ渡り鳥がわたる際に、重要な中継地点である韓国の干潟の保全を訴えていました。

下の写真：環境保全を訴える集会風景



こうして少しでも、今の自然環境の状況を伝えることが必要なんです。大変だ〜。

■ここを後にして、イラク環境省／国際連合環境計画と看板が出たブースへ伺いました。

環境をテーマにイラクの子供たちが描いた絵が展示されています。

伺ったときに、イラク南部湿原の話 UNEP の三村さん（右下写真の女性）がイラクの自然を下記のように熱く語ってくれました。



この湿原は、自然環境としても社会文化的に見ても重要な意味を持つ湿原で、旧政権での上流開発（ダム建設や排水事業など）で多大な打撃を被り、生物多様性に富み自然と人々の生活が共生していました。しかし旧政権が崩壊した2003年には、ほぼ壊滅状態になっていたことからそれをまた回復すべく活動に参加している。テレビの報道などで映し出されるイラクの砂漠に覆われたイメージとは違って広大な国土には、さまざまな地形や気候が存在し、北部には緑の多い山岳地帯があり、冬には降雪もあることや国土を貫くチグリス・ユーフラテス川には豊かな自然がある。その下流の合流地点には、前述の西ユーラシアで最大のイラク南部湿原があり、水辺は水鳥の宝庫である。また今も続く灌漑事業によって自然が壊れるのを国際社会と連携し保全活動を応援したい。



■資源を大切にリサイクル

プリンターメーカー6社による「インクカートリッジ里帰りプロジェクト」

インクカートリッジを回収し再資源化することで社会に、そして地球環境に貢献したいと6社が願いを込めて2008年4月にプロジェクトをスタートしたとのこと。一般家庭では、いまだに一般ゴミとして分別されずに可燃や埋立へと廃棄されている現状があり、この活動が早く広がり、各個人が意識して協力してもらえたらと願って努力しているとのこと。また、カートリッジの仕分け拠点として長野県にある「ミズベ」という障害者の方々が多く働く企業を選定し、障害者雇用支援の一助にもなっているとのことでした。

下の絵はリサイクルの流れです。

「インクカートリッジ里帰りプロジェクト」公式ホームページ

<http://www.inksatogaeri.jp/>



■世界一の環境先進大学を目指す

三重大学のブースも覗いてみました。環境保全活動を通して環境人財を育成し世界一の環境先進大学を目指すという大学の環境報告書2010などを紹介しながら説明してくれました。ブースでは、環境ツリーという木にゾウさんとかカメとか様々な動物を模った短冊に各個人が取り組めるだろう環境取組を書かせて飾るユニークなものがあり自分も書いて飾りました。何を書いたかは言えません。（右のツリーの写真）



以上、COP10生物多様性交流フェア会場からでした。

■その他資料

- ・独立行政法人海洋研究開発機構

深海に棲む硫化鉄で覆われた貝など変わった生物を紹介。これら生物は、研究により医薬品などにも使われることもあるとのこと。まさしく生物資源である。



- ・世界の自然を守るWWF



平成22年11月1日
小野文義（環境記者NO.090107）

カテゴリ：平成22年度
投稿日：2010年11月28日

トピアリー（熊）を作りました

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月29日

10月14日平塚二町目町会会館で、品川区都市環境事業部水とみどりの課の協力を受け、トピアリー（熊）作りに25名が参加しました。

針金で骨組みを作り、ミズゴケを巻きつけ、お腹に当町会が熟成している「エコ熟成土壌土」を使って蔦を植えました。

作った熊さんはそれぞれ表情と体型が異なり、作者の人柄が伺える作品となりました。



持ち帰った作品には思い思いのデコレーションを付け、根付いた蔦と一緒に平塚二町目町会文化祭（11月12日～15日）に展示し、好評を得ました。



見学者と作者との交流を深める中で、来年の干支「うさぎ」をタオルで作らしよう（12月16日）という取組みも決定しております。密度の濃い地域コミュニケーション作りに一役かっています。

平成22年11月24日

志賀 勝（記者NO.060110）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月29日

しながわ花海道で菜の花の種まき

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月29日

平成22年11月14日（日）（10:00～14:00）立会川河口の東京湾入江の護岸（通称・しながわ花海道）で「菜の花の種まき」が地元ボランティア団体（しながわ花海道プロジェクト）により行われました。

しながわ花海道では7月4日にコスモスの種まきが行われ、つい先日までこの地にはコスモスが咲き乱れていましたが、それもきれいに刈り取られ、今日の菜の花の種まきになりました。

私も一区画をお借りしており、菜の花の種を植えました。来春には、一面に咲く黄色のきれいな菜の花が、見る人の目を楽しませてくれることと思います。



平成22年11月25日

畔柳今朝登（記者NO.090106）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月29日

水芙蓉、夏から秋に咲く一日花です

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月29日

朝は白、昼は薄ピンク、夕方に近づくにつれ赤くなる様子が、まるで酒に酔う時と似ているためについた名前のようなのです。夏から秋には時間が狂わないのですが、日が短くなると鈍くなっていく不思議な花です。一重と八重があります。

植物生理学会・みんなの広場ネットでしらべましたら、「アントシアニンの生合成が午後以降急速に進むためであり、気温が25度以上だと進みますが、低温だとあまり合成されないこと、紫外線には影響されないことが判っている」とサイエンスアドバイザーの今関英雄さんの説。



朝



昼



夕

平成22年11月24日

撮影：高塚純江（記者NO.100101）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年11月29日

第13回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2010年12月02日

平成22年11月11日（木）、第13回環境記者情報交換会が6名の環境記者と2名のオブザーバーの出席のもとで行われました。

★はじめにインタミディア代表の佐山吉孝様から「昔のおもかげを探してまち歩き／その五、大崎駅前から百反坂周辺」と題してお話を伺いました。



再開発が進んだ大崎駅前も少し入れば狭い路地があり、昔ながらの建物や風景が見られます。



鉄道の線路沿いに残っている古いプレートを見ると、昔の地名が残ったりしています。

またこんな道標が見られ、次のように書かれていました。（下写真と説明）
歴史を感じさせられ、このようなものも大切に残したいものです。



右目黒、左三ツ木、東ハ品川宿
・三ツ木通り（戸越銀座商店街）
・目黒道（山手通り）目黒不動
・品川宿（品川道、碑文谷道）
三ツ木通りと品川道の交差点

新しいビルが建てられています、駐車場に施された緑化やビルの中の植栽など、少しでも環境に配慮しようとしている様子が伺えます。



★続いて環境記者の皆さんが取り組んでいる活動紹介と情報交換です。



(左から、真壁さん、高塚さん、畔柳さん)

・真壁さん：この夏の暑さには堪えました。植物にも大変だったようで、ドウダンツツジが咲く時期を間違えて季節はずれの花を咲かせていました。ツツジは猛暑で葉が落ち、9月中頃には涼しくなり10月初めに暑さが戻り、春が来たかと勘違いしたのでしょうか。

・高塚さん：私のお気に入りの場所は大崎駅前のシンクパークの庭です。秋にはススキ、ホトトギス、ノコンギクなどが素晴らしいです。今年も水遣りをしたのですが、猛暑のために足りなかったようで、かなり枯れてしまいました。自宅では殺虫剤を使わないためでしょうか、虫が家に逃げ込んできます。先日はへびがとぐろを巻いていました。

畔柳さん：相変わらずJR五反田駅から‘ゆうぼうと’へ行く通りを歩く際に、歩道のごみ拾いなどをしています。地元の商店街では毎月1回、日曜日の朝やっていますが、私は個人的に行っています。また五反田周辺では残念ながら、業者の貼り紙が目立ちます。



(左から、中西さん、小野さん、吉岡さん)

・中西さん：自宅の庭にビニールバケツを置いて槇の木を育てていたところ、突然小さな植物が誕生しました。はじめはあまり関心がなく2年が経過したのですが、それはなんとぶどう科の植物でした。たぶん鳥が種を運んできたのでしょうか。それから5年目の昨年、実をつけるまでになり、近所の子供さんや保育園の園児さんに食べていただいて喜んでもらいました。

・小野さん：東京サラヤ◆に勤務していますが、2008年から環境方針の中に「生物多様性」という言葉を記述し、その保全活動をやろうということになりました。地域の小学生などに環境に対して情報があれば年に何回か紹介しています。

・吉岡さん：10月に環境情報活動センターのこども環境講座で、日ごろ全国で開い

ている科学実験教室のインストラクターとともに講師をさせていただきました。子どもさんに限らず大人の方にも環境についてお話できる機会があればと思っています。

<本日はオブザーバーとしてお二人の方にご出席いただきました>



(左から、辻本さん、新居 さん)

・辻本さん：最近生活の中で感じることは無機質なものの多さです。生き物を大切にしようという気持ちがほしいものです。

・新居 さん：毎週福島県へ通ってキノコと野菜を作っていますが、これを17年続けています。野菜は化学肥料を使うことなく、落ち葉、堆肥など全部自然の肥料で作っています。区内では西中延三丁目町会では皆がボランティアで資源回収（毎月3回）をしています。また自分としてはなるべくごみを出さない活動をしています。

・佐山さん：この情報交換会はだんだん素晴らしい会になってきていると思います。大賞を受賞されるなど、皆様のご活躍がセンターを盛り上げているのですね。

・主催者：環境記者として大学生の方にも登録していただいています。今日は平日ですのでご出席をいただいていません。今後も幅広い分野の方に参加していただけるようにしたいと思います。記者のみなさま大変お疲れ様でした。

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2010年12月02日

羽田空港の新滑走路は環境を配慮した構造になっています

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年12月02日

10月21日に羽田空港は新国際ターミナルをオープンさせました。海上に新設された4本目となるD滑走路は、多摩川の流れを妨げないように埋め立てではなく、橋桁上に建設されており、環境に配慮した構造となっています。

しながわ観光協会では、海上より品川の海を楽しんでもらうため、屋形船を利用した遊覧を定期的に企画しています。このたびは羽田空港周辺まで足を伸ばしました。写真は運河で見かけたカヌーを楽しむ人。護岸は、生物の棲家となり、船の引き波を吸収する、石積みによる新しい工法で造られています。



平成22年11月29日

勝山宏則（記者NO.060204）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年12月02日

しながわ花海道の菜の花の種まき講習に参加しました

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年12月07日

11月3日（水）・6日（土）、品川区立会川勝島運河において、しながわ花海道実行委員の方々による菜の花の種まき講習が行われました。しながわ花海道実行委員の方々が、私たち立正大学生のために、土の耕し方、肥料のあげかた、種の蒔き方などをレクチャーして下さいました。

活動の様子です。



お天気に恵まれ、良い汗をかき、様々なことを学びながら畑仕事ことができました。雑草だらけだった立正大学の畑もきれいな菜の花を咲かせる準備が整いました。勝島運河の様子です。



草花だけでなく虫や鳥もたくさんおり、品川区という「都会」のなかにいることを忘れさせてくれます。講習終了後、みんなで記念撮影をしました。



花海道実行委員のみなさま、朝早くから立正大学のためにありがとうございました。

私たち立正大学生にとって、多くの知識を得られ、充実した一日となりました。

平成22年11月18日

撮影：坂本美波（記者NO.100104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年12月07日

しながわ花海道の『菜の花の種をまき』に参加しました

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年12月07日

11月14日（日）、品川区立会川勝島運河で、しながわ花海道『菜の花の種をまき』が行われました。お天気に恵まれ、多くの参加者で賑わいました。参加者たちは、菜の花の種をまき、バーベキューや催し物を楽しんでいました。

立正大学生は10名が参加しました。朝8時に集合し、開始時刻の10時まで、実行委員の方々とともに荷物を運びだし、畑の番号付けをするなどの準備を行いました。10時からは女子は受付、男子は他の企業の畑の手伝い等を行い、地域の方々の親交を深めました。また、今回から立正大学生がごみの回収を行ったのですが、参加者から「助かる」「ありがたい」との声がありました。このことを踏まえ次回以降の対応を考えていきたいと思えます。

↓イベントの様子です



多くの参加者が菜の花の種をまいたり、坂本竜馬の紙芝居を聞いたりなどしてのんびりと過ごしていました。



↑今回は日本ハムさんが肥料を提供して下さいました。

日本ハムグループ（インターファーム）の農場から出る「豚のふん」などをリサイクルしてつくった肥料だそうです。

しながわ花海道参加者の皆さん、お疲れさまでした。充実した一日になりましたでしょうか。菜の花が咲くのが待ち遠しいですね。

平成22年11月18日

撮影：坂本美波（記者NO.100104）

カテゴリ：平成22年度

投稿日 : 2010年12月07日

岡山藩主池田家下屋敷跡池田山公園（小雪の頃）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年12月12日



東五反田下大崎坂近くの宝塔寺前を北に進むと旧関東逓信病院、その西側の森が池田山公園です。その名の通り池があり、段々畑を思わせる斜面は都会の里山、東五反田の自然の森です。樹木や草花は四季折々の花を、又自生する野草も心を癒してくれます。小雪を迎え、本来松の雪吊が絵になる季節ですが、遅れながら霜降りの頃の紅葉になりました。正門前の道路から色づいた山里の様子が楽しみになります。



(入門
ます)



(池周りを楽しみ



池周りを楽しんだ後小道を登り、東屋前へ。梔（クチナシ）が朱い実をつけていました。その下では吉祥草が満開です。



東屋前からは山里の紅葉です。東屋から事務所前へいつも鮮やかな紅葉です。



遊歩道・正門方向です。



池田山公園の秋は紅葉、一月半も遅れたようです。岡山に池田山、どちらにも地名に山、品川との交流は江戸時代だけなのかなとも思います。都会の里山は生きています。大地・自然も生物、人も生物、大地・自然は人以上の芸術を作ります。それを愛し、守る事が本当の文化・文明であると思います。

平成22年11月23日

内田 雅弘

カテゴリ: 平成22年度

投稿日: 2010年12月12日

皇后様の縁の花の庭園 ねむの木の庭（小雪の頃）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年12月12日



小雪の頃は小雪が散らつく季節。気温で四度位、室町、江戸時代より今は十度近く気温が高くなっています。合歓の木にもやっと晩秋が訪れ、小さな豆の実と木の葉と共に、落花していました。正門を入ると正面は山ぼうし、秋色に染まっていました。落葉の早い木です。手前には朱色の薔薇、残暑が続いているようです。賑やかだった秋明菊は秋の終わりを告げていました。



庭園奥、黄色の葉に白い幹、白樺です。隣は山こおばし。合歓の木では赤紫の蕾から白い花、吉祥草です。草の陰で見落とします。



浜菊海辺を偲ばせるかのように咲いています。正門脇では黄色のユリオプスデージーが冬の日に出迎えてくれます。五反田のビル街を上った東五反田の台地は空地が目立ち、古い家もビルに変わりつつあります。皇后様縁の花の庭園、やっと秋から冬に衣替えのようでした。

平成22年11月23日

内田 雅弘

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年12月12日

ヒマラヤ桜開花（大雪前） 戸越公園肥後国熊本藩主細川家下屋敷跡

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年12月20日



薬医門前のヒマラヤ桜が一斉に開花しました。蕾が見られたのは十一月二十日過ぎのこと、本来十月末の落葉直後蕾が出て、直に開花し満開になるのが十一月の下旬。今年も蕾はついても残暑の候、一気に開花したようです。

待ちきれなかったのか緑の小葉も出てしまいました。真夏の暑さも三十三度真冬の寒さも三～四度と人間並みの環境温度です。



夜は蛍光灯の照明があるとのことですが、花木にとっては眩しいですね。一日中眠る時がなく疲れてしまいます。公害に強いと言われても昼間の太陽光で十分です。花蜜がたっぷりあります。この日は目白たちに会えませんでした。



近隣の方から贈呈された後毎年、公園を訪れる人たちを和ませてくれています。その後道路沿いに植えられた若木も大きくなり、今年からは二本のヒマラヤ桜が薬医門を彩っています。

細川家の地元熊本城は桜の名所で秋は銀杏に山茶花、下屋敷跡に添えられたネパールの花木です。

平成22年12月6日

内田 雅弘

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年12月20日

大雪の日、淡紅の秋冬の桜ヒマラヤ桜荏原町 弁天通り公園

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2010年12月20日



荏原町弁天通り公園は、町のお医者さん跡地、「弁天通り」の由来となった弁天様は地域の人たちに親しまれている個人のもので公園横にあります。四年程前、開国の際に植えられたのがヒマラヤ桜です。ヒマラヤ桜は四十年程昔、ネパール皇太子から熱海市に種が贈られたのが最初とのこと。ネパール地方と生育条件が似ていたそうです。

紅葉の後十月末落葉と共に蕾が出来、直に開花、十一月下旬に満開するとの事です。淡紅色が主で白っぽい戸越公園のものは希少です。公害には強いとの事ですが強風33度以上の暑さには弱いそうです。成長すれば十メートルにもなるとの事、正にその高さに達しています。



多数の蕾があり、今後の開花が期待されます。緑の新葉は季節を待ちきれなかったようです。染井吉野と違い花の寿命は長く散策に楽しむ事が出来ます。



花蜜は多いとのこと、目白、ヒヨ鳥、雀たちが立ち寄っていました。

三本のうちの一本は強風で折れたとのこと、もう一本もビルの角、西陽を受けています。

開花しているのは朝陽をたっぷり浴びています。戸越公園では蛍光灯で夜も照明、寝不足のようです。花蜜を求める小鳥たち、電車が通る度に立ち去ります。風と磁界のせいかも知れませんね。

荏原町弁天通りの路地の公園で、遅れながらも秋から冬の桜を楽しむ事が出来ます。

平成22年12月7日

内田 雅弘

カテゴリ: 平成22年度

投稿日: 2010年12月20日

寒い冬でも元気な生き物たち

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年01月07日

2010年12月30日AM9：45、勝島橋をわたり大井ふ頭中央海浜公園へ向かう途中、かもめが迎えてくれました。



はじめ二羽居たかもめが、あっという間に増えてご覧の通りです。



今日ここに来たのは、公園で昆虫観察をするためです。

12月4日に茨城県土浦市でシジミチョウを見て、もしかするとここでも観られるかなと思い出かけてきました。

公園内は落葉樹の葉が枯れて道の両サイドに広がっていましたが、常緑樹がけっこうあって昆虫がまだ観られそうな気がしたのですが、やはり気温が低く確認できませんでした。

ただハエのような昆虫を確認。ハエって年中居ますよね。



PM1：30、4時間ほど歩き、あきらめて帰ることにしました。

あーっ寒う（^^）；。

平成23年1月4日

小野文義（環境記者NO.090107）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年01月07日

しながわ区民公園の梅

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年01月12日

小寒を過ぎたところで本格的な寒さもこれからですが、しながわ区民公園では梅の花・ボケの花、そしてスイセンが顔を出し始めました。

しながわ区民公園には約25種類の梅がありますが、それぞれ開花時期が異なるため訪れるたびに違った梅の花が鑑賞できます。

春が待ち遠しいですね。



蠟梅（ろうばい）ほぼ満開
2分咲き



白牡丹（はくぼた



玉牡丹（たまぼたん）2分咲き
2分咲き



玉牡丹（たまぼたん）



緋梅

平成23年1月7日

丸山 均（記者NO. 090105）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年01月12日

「寄せ植え講座」に参加して

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年01月18日

何回目の応募でしょう、念願叶って昨年12月16日の寄せ植え講座「お正月の寄せ植え」に参加させていただくことができました。

その際つぼみがとても固かった「貴山白」が約1ヵ月後、ご覧のように咲き始めました。

私自身、本当に咲くだろうかなと心配していましたが・・・

毎日我が家のリビングを明るくしてくれています。

まだまだ楽しませていただけそうです。



平成23年1月13日

撮影：真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年01月18日

松の雪吊（大雪の候）岡山藩主池田家下屋敷跡 池田山公園

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年01月24日



十二月十六日、十七日、東五反田の大名庭園で雪吊が行われました。本来であれば立冬の後、積雪に備えて行われるのですが、このところの異常気象で遅れています。都会の山里と言われる程の斜面の多いところです。気温は五度、柱の据付です。



大黒柱に相当し、松の幹に縛りつけます。脚立が使えない場所、木の上での作業です。庭師ならではの軽業です。きつく、そしてやさしく留めます。



大黒柱の次は床です。松の枝の下部に細竹を横に留めます。周りに丸く円を描くように竹を留めます。縄を縛る場所、足許は斜面、一仕事です。



縄を留めるだけでなく仕上がりの円錐の美しさも頭に浮かべながらの作業です。基礎作りは重要な作業、職人の技です。脚立も木と竹で作った手作りです。



床が出来たら縄で作る傘です。細縄を木の大きさに合わせて準備、六十から八十本程を柱の頂上部に順序良く並べて縛る作業。もっとも気を使う作業だそうです。



木の上で一本一本順序良く選び木の下方へ降ろします。
下では竿を使って縄を寄せます。



計画した本数に合わせて等間隔に縄を留めて行きます。物差しは頭の中です。
庭師職人だからこそ可能な技です。



上では縄をほぐし下では縛り付ける、双方の呼吸が大切です。
一本一本細縄が増え円錐形の雪吊が見えてきます。大名庭園ならではの冬景色です。



大きい松が二本、小さめの松が一本完成したのは二日目のお昼でした。



一見若々しく見えても根元は幹周八十センチ程の苗木、日が暮れても照射する熱波（電波）と闘いながら生きています。

雪吊の近くに行き見上げれば、職人さんの苦勞がよく判ります。



松と言えば東海道の松並木。海岸地帯の松は防風林として親しまれています。幹が黒く黒松、雄松とのこと、山野の松は幹が茶色系の赤松、雌松とのこと、海と山の出会いは風が助けてくれているようですね。

風に強くても積もる雪に弱い必ずしも常緑樹ではないとのことから寒さでは弱いのかもかもしれませんね。

守ってくれるのが日本伝統の植木職人さんたちです。

自然を愛する人たちは松の心が解ります。手順書を作り機械に任せても「松の心」は読めません。

大雪を過ぎても品川には雪の報せは届きませんがいつ大雪になるのか察しが着かないのが今の異常気象です。

江戸から岡山までの道中の想いが込められている感じの池田山公園、遅い冬支度を伝統の庭師の人たちが行ってくれました。

平成22年12月18日

内田 雅弘

カテゴリ : 平成22年度

投稿日 : 2011年01月24日

蘇鉄の雪囲い（大雪の候）岡山藩主池田家下屋敷跡 池田山公園

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年01月24日



十二月十七日池田山公園で松の雪吊の後、蘇鉄の雪囲いが行われました。蘇鉄は暖かい地方の樹木、岡山は瀬戸内海に面した暖かい所、縁がありそうです。



大きく広がった葉を幹に纏める作業から始まりました。力強い葉で苦勞します。根の方から蓆を巻き付け細縄で縛ります。歯茎を巧く纏めていれば作業は順調に行きます。



頭部に藁で作った帽子を被せ、縛ります。雪解水が浸み込まないように作ってあるとのこと、下準備の重要な手間のかかる作業です。人の横顔を想い浮かべます。





仕上げは根本、蓆の裾を竹で作った釘で留めます。

雪に寒さに弱い樹木もあります。それを守ってくれるだけでなく、一つの絵として仕上げてくれるのが庭師の職人さんです。庭園の美を作り自然に生きる植物たちの生命を守り育てている庭師職人さんの優しい心があります。

庭園を訪れた際にはその景色に感動するだけでなくその心意気に感謝し、その心を学ぶのが自然とのふれあいだと思います。

気になったのは蘇鉄の後でした。「また来年ここで会いましょう」眼を傷めていた若い職人さんの言葉が思い浮かびます。

平成22年12月18日

内田 雅弘

カテゴリ: 平成22年度

投稿日: 2011年01月24日

蠟梅開花（正月二日）しながわ区民公園

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年01月24日



しながわ区民公園梅林にある蠟梅が今年は早々と身頃を迎えていました。本来一月下旬から二月にかけて身頃となる花木です。この秋の遅れは残り黄色くなった木の葉が多数あり、多くの蕾は葉陰に隠れています。この公園は昔は海、大森から鮫洲にかけて海苔養殖等漁業の盛んだったところです。又、近くの蒲田には何故か温泉が多く東京湾には火山が眠っているのかとさえ感じてしまいます。関係の有無は別として、品川区内でも唯一気温の高い所です。



従って区内各所の蠟梅は今からです。蠟梅は花びらが厚く蠟細工の様な梅に見えることから付いた名前です。多くの人たちがカメラを向けていました。梅林の梅も本来より早く、一月中に咲き始めそうです。紅・白梅に期待して黄色の蠟梅を楽しむ欲張りのようですね。平成22年1月2日
内田 雅弘

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年01月24日

皇后様、縁の花の庭園 ねむの木の庭（小寒）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年01月28日



小寒の頃は、日の出時刻が最も遅い頃。その後、早くなり一月後の立春を予感させます。新春の花の庭園、道路沿いでピンクのジャノメエリカが迎えてくれました。ピンクのものは冬から春の花とのこと。



正門横では黄色のユリオプスデージーです。

アケボノフロウ（ゲラニウム）の葉が紅葉し、花のようでした。



緑の中に映えているのは黄色のチャリティとマホニアです。



この異常気象の中、路地の花々も少なくなっています。当初、計画されていたクリスマスローズがあればいいなと思う冬です。白樺の幹の白さが青空に目立っています。

平成23年1月7日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ: 平成22年度

投稿日: 2011年01月28日

寒緋桜

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年02月07日

今回訪問した 荏原神社・・・は南品川の鎮守と言われ、かつては品川宿の総鎮守だったらしいです。



創建は和銅2年（709）と古く・・・

雨を司る龍神をはじめ、天照大神やスサノオノミコトを祀っています。

大鳥居の傍らに、石造の恵比須像が鎮座していました。

円満な笑みと後ろ姿 が人気らしいですよ。



そして、この荏原神社の寒緋桜（かんひざくら）は見事な咲きっぷりです。





寒緋桜 は旧暦の正月あたりに咲くことからガンジツザクラ（元日桜）と呼ばれることもあるらしいですが、ヒガンザクラ（彼岸桜）と混合されやすいため、近年は寒緋桜 と呼ばれることが多くなったそうです。

神社内には、寒緋桜 は2本あり、樹齢およそ40年。

区内で一番早く見られる桜 として地域の人たちに親しまれています。

鮮やかな花には、毎年メジロやヒヨドリが蜜を吸いにやってくるそうです。

ひと足早い、桜をご覧になってみては如何でしょうか？

平成23年2月3日

徳 島 政 治（記者NO.100106）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年02月07日

寒緋桜が満開 荏原神社（北品川） 立春の候

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年03月03日



目黒川沿い荏原神社の寒緋桜が満開になっていました。初めて観たのは平成十三年二月東海道四百年祭神興連合渡御の日、品川橋からです。川沿いの松並木の中、淡紅が目立ちます。



今年は正月には開花し、異常気象の話題になりました。例年通り立春を迎えてから満開、恵比寿様が笑顔になります。



園児たちも先生の説明に聞き入っていました。
花は下向きです。



目白が次々と訪れ賑やかでした。大勢の観客、カメラを気にも留めず「とにかく甘い蜜」です。

平成23年2月8日

内田 雅弘

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年03月03日

活発な春の息吹が発見できる季節です

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年03月04日

つい先日、春一番が発表されましたが、植物にも活発な春の息吹が見られるようになってきました。

今回は自宅のベランダで育てているユキヤナギ *Spiraea thunbergii* の紹介です。バラ科 シモツケ属に属する落葉低木です。



ユキヤナギの名は、柳のような細い葉に5弁の小さい花が細い枝を覆うように真っ白に咲き、たわわにつけた枝が細くしなやかに垂れ下がる様子などに由来すると言われ、桜よりも一足早い3～5月ごろ、垂れる枝に雪がかぶったように小さな白い花をびっしりとつけます。

葉は細く小さめで自然樹形は優しげな雰囲気

街路樹や公共の公園内の池の端などでよく見かける花木で、強健な樹木として人気があります。

株の根元からは新しい芽が続々と出始めています。



このユキヤナギは、広島県周辺が自生地となっていますが、昨今絶滅が危惧され準絶滅危惧とされてるそうです。

3月以降に挿し木で増やすことが可能なので、今年は沢山挿し木をして「鹿島庚塚公園」に植え込みする予定です。

開花が待ち遠しい季節となりました。

平成23年2月27日
徳島政治（記者NO.100106）

カテゴリ: 平成22年度

投稿日: 2011年03月04日

春の訪れ 蔦の臺（フキノトウ）（雨水の頃）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年03月14日

東大井三、昔のせせらぎの近くで、緑の葉に包まれて、小さな白い花が春を迎えました。蔦の新しい茎が春を感じて花を開くもの。



幼少の記憶では蔦の臺よりも蔦の茎の煮物です。たらの芽、筍、土筆、菜の花、皆若い新芽の食材なんですね。魚の卵、稚魚、新しい生命ですね。食材として好む人も居ますが、成長を見守る方が好きです。白い花は春の陽射しをいっぱい受けて茎を大きく育てます。

この一角は色んな花も咲きます。この日も、木々の手入れをなさっていました。四季折々の植物は昼夜区別ない照明。



昼夜お祭り騒ぎのテレビやラジオ。歩きながら、工作中、他を忘れての携帯電話。エアコンで暑さ寒さの感覚を失った生活。人は大自然を感じ、考える動物であるそのことさえも忘れてる現代に人の心を蘇らせる力を持っています。

植物は雨・風・雪の中で生きています。人の祖先も同じです。蔦の臺のように、春の訪れが必要なのは人間のようです。

平成23年2月27日

内田雅弘

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年03月14日

皇后様縁の花の庭園 ねむの木の庭（雨水）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年03月22日

先日は夜中に2センチ程の積雪、そのまま曇（ミソレ）に変わり「大雪」とは、「雪」を大騒ぎした事のようにです。昨年より少ない名残り雪でした。



東五反田、花の庭園では係りの人が庭園について説明中でした。昔の正田邸の話題、庭の広さはいつも話題になっています。昔の庭の様子との比較、今の庭園が出来てからの若い苦労など様々。今の梅の木も、当初は中央ガス灯の陰でした。多くの花木が当初の計画より移動したとのこと。庭造りは庭師の仕事ですね。



梅は立春の頃から変わりありません。多くの蕾（ツボミ）があります。こぶしに蕾が見られました。道路沿いのジャノメエリカ、ユリオブスデージーは変わりありません。雪解け水で雨水を迎え白梅の蕾も元気、満開の日が待ち遠しくなります。



目白や鶯（ウグイス）が来てくれるのを待ちましょう。シナマンサクが開花したとの便りもあります。少々早いようですが春の花々の開花宣言です。

平成23年2月19日

内田雅弘

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年03月22日

第14回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2011年03月24日

平成23年3月4日（金）、第14回環境記者情報交換会が9名の環境記者の出席のもとで行われました。

はじめにインタメディア代表の佐山吉孝様から「昔のおもかげを探してまち歩き／その六、池田山、島津山、花房山をめぐる」と題してお話を伺いました。



今回は目黒駅からスタートし、まず花房山に向かいますが、山あり谷ありで真っ直ぐに行くことができません。昔から人は高台に住んでいたようです。そのためでしょうか「Y」字の道（写真左下）があちらこちらにあります。



寺町に入ってきました。9つの寺が集まっていますので、主だったお寺を見てみましょう。

竜僧院の桜（写真右上）です。他の季節にも撮っていますが、自分の撮った写真のアングルは同じでした。向かいに清岸寺があり、こちらには品川区指定天然記念物のサクラ（写真下・手前のサクラ）があります。山門も本堂も江戸初期の建築で今でも残っています。

常光寺には「福沢諭吉先生永眠の地」の碑（写真下）がありますが、昔はお墓がありました。



池田山公園（写真左下）に来ました。もとは岡山藩池田家の下屋敷だったところで、公園の中にはほとんど桜はないのですが、周りにはあります。池田山公園には桜の咲く時期の少し前にかたくりが咲きます（写真右下）。品川区ではここだけでしょう、他では見たことがありません。



ここにはすみれが非常に多く、いろいろな種類のすみれが咲きます。また初夏には山の斜面にツツジが咲きます。あやめも。秋の紅葉は特にいいですね。

五反田にやってきました。清泉女子大学は仙台伊達藩の下屋敷跡（後に島津家の所有になった）ですが、仙台坂の辺りにも仙台伊達藩の下屋敷がありました。さすがですね、こんな近くに2つも下屋敷があったのですから。

目黒駅から花房山、池田山、島津山を通過して五反田駅まで歩いてきました。開発されたビルの間に、今でも残っている自然や歴史の跡を見ることが出来ました。

★続いて環境記者の皆さんが取り組んでいる活動紹介と情報交換です。



（左から、真壁さん、高塚さん、青野さん）

・真壁さん：この冬は特に寒く感じるのですが、いかがでしょうか。変な気候ですね。現在、ボランティアで南大井二丁目の歩道に花を植えています。その花は国交省から頂いているものです。国交省の予算の関係で花がもらえなくなるかもしれません。これからどうなることか、心配しています。

・高塚さん：ビオトープ作りの真似事をしていますが、そこに蛙がゲコゲコと出てきました。隣家が売りに出され建売住宅が建つことになりましたが、我が家は薬剤を使用しないので虫や鳥が集まります。虫を嫌う人が入居されたら苦情が出るのではないかと心配しています。今日では益虫も害虫扱いされてしまっていて、私も「不快人間」にされるかもしれませんね。

・青野さん：東京湾の定点観察を続け、今年で36年目になります。東京湾の状況についてはいろいろと本には書いてありますが、まだ調べきっていないなと思います。しかし海が埋まってきていることは確かです。マンションの管理人をしています。管理人が出来ることには制限があります。分別がしっかりと出来ていないと回収の人が持って行ってくれません。これらのごみ問題は法律改正しないと解決しないでしょう。



（左から、新居さん、中西さん、志賀さん）

・新居さんには西中三丁目（西中延三丁目）町会で行っている資源回収の模様を、中西さんとともにDVDでご紹介いただきました。

私たちの町内会では月に3回、新聞、雑誌、ダンボール、アルミ缶などの資源回収を行っています。

朝早くから行っており、町会の皆さんの協力によって成り立っています。



・中西さん：同町会での資源回収の話の続きです。新聞、雑誌、ダンボール計で約10t、アルミ缶を含め年間で約60万円の収益があります。これらを子どもさんのお祭りやお年寄りのサポートなどに使っています。月に延べ40人くらいが協力してくれていますが、分別の意識、まちの人の協力の気持ちが大切で、それが成果と思います。

・志賀さん：私たち平塚二丁目町会ですが、同じように町会をあげて資源回収（主に新聞とダンボール）を行っています。たまたま町会会館があるのでそこに運び込んで、満杯になったら連絡して取りに来てもらっています。古着や家具などのリサイクルも行っており、その収益の一部を会館の機器類の購入などに使用しています。町会組織に「花と緑の部」を設け、予算もつけてもらい、10人の部員で活動しています。戸越銀座祭りでは、イベントのお餅つきで使ったボイラーの残り湯を、手作りした「足湯」に入れ、好評でした。



（左から、小野さん、徳島さん、丸山さん）

・小野さん：先月某企業主催の「生きものがたりフォーラム」に参加しました。周りがコンクリートで囲まれた都会の企業においては、生物多様性にどう取り組んだらよいか分からないという企業が多いようでした。例えば緑を増やすというのも一つの方法だと思います。大手企業ならビオトープや屋上緑化も出来ますが、中小企業では話は出ますがオーナーの了解が得られないのが現状との事です。こういった場合、複数の企業や団体が一緒になって地域で取り組んではどうかといった提案をしました。大企業も地域に根ざした取組みを考えてみようという意見も出てきました。

・徳島さん：仕事の関係で2002年から昨年まで中国にたびたび行っていました。街頭にはよくごみが落ちており、もう少しモラルがあったらよいのと思ったのですが、日本でもタバコの吸殻や空き缶などが落ちています。現在池上通り沿いの事務所です仕事していますが、目的を持って環境に良いことをやろうと、公園整備や遊具のチェック、将来的には宿根草のように自然の力ではえてくる庭園作りをしたいと思っています。公園のあり方について違った視点から新しいモデルが出来たらいいなと思い、「品川・大井町 花とみどりを守る会」を発足させました。

・丸山さん：しながわ区民公園で活動しています。主眼にしていることは「ゼロエミッション」、つまり廃材を出来るだけゼロにするというもので、ごみを減らすこと、樹木を剪定しますがその廃材を還元することなどです。例えば、葉が落ちる木の葉っぱは腐葉土に、枝や幹はチップにして道に敷き詰めてクッション性のある道にする、大きな枝や幹については土砂止めやベンチ、テーブルにするなどです。また梅林には花がつくようになり、現在25種類、108本の梅の木があります。ごみ箱の数を減らし、ごみの量も減ってきています。

・事務局：ごみの出し方の問題、資源回収の進め方や協力者他への還元について皆さんの関心は高く、非常に多くの意見や情報の交換がありました。今回も時間をオーバーしてしまいましたが、多くのご意見ありがとうございました。

カテゴリ : ◆情報交換会

投稿日 : 2011年03月24日

西中三丁目資源回収事業について

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年03月30日

西中三丁目（西中延三丁目）町会で行っている資源回収事業についてご紹介いたします。

私たちの町会では月に3回、新聞、雑誌、ダンボール、アルミ缶などの資源回収を行っています。

朝早くから行っており、町会の皆さんの協力によって成り立っています。



たくさんの資源が集まっています。これからさらに集まります。



集めた古新聞をトラックに積み込みます。



回収は自転車やリヤカーで、またご近所の方が持ってきてくれたり、町内を回って集めたりします。

ダンボールを車で持ってきてくれる人もいます。

集めた資源をみんなで仕分けします。



回収業者のトラックに積み込み、今日の活動は終了です。

回収へのご協力に感謝！！



平成23年3月4日

新居 邦明（記者NO.100105）

カテゴリ：平成22年度

投稿日：2011年03月30日